

事業概要

朝鮮總督府專賣局

朝鮮總督府專賣局沿革の大要

專賣局の前身とも稱すべきは統監府度支部專賣課にして、之より先明治三十八年韓國政府に財政顧問部の設置と共に、煙草に關する財源の調査竝に耕作の奨勵に力を効し、又紅蔘にありては、明治三十二年（光武三年）内藏院に蔘政課を置き、之を管掌せしめたるものにして、度支部專賣課は乃ち之等の事務を管掌し次いで同四十年京畿道朱安に天日製鹽の試験を行ひ、以て在來幼稚なる採鹽方法改革の基礎を築きたり。

越て明治四十三年日韓併合により朝鮮總督府度支部專賣課に於て、更に之等の事務を繼承し來れるが時勢の進展に伴ひ、大正十年四月一日朝鮮煙草專賣令公布せられ、同年七月一日より之が實施と共に專賣局は朝鮮總督府の外局として設置を見たるものにして、民間より徵收せる煙草製造工場の内主要都市に所在せる元東亞煙草株式會社工場を以て各支局とし京城府、全羅北道全州府、大邱府及平壤府に支局を設置すると共に、必要なる箇所に出張所竝に派出所を置き茲に完全なる形態を備ふるに至れり。爾來時勢の進運と所管事業の伸展とに伴ひ屢々制度の改正を見たるも現在に於ける官署は支局四、出張所三十五、販賣所三百〇七、派出所百十八、内鹽業に屬するもの本局直轄出張所三、派出所五、支局の出張所八、蔘業に屬するもの本局直轄出張所一とす。而して阿片は舊韓國政府より日韓併合後總督府の管掌に屬し、後幾多の變遷を見、現在に於てはモルヒネ類の製造販賣は共に當局の所管する所となれり。



朝鮮總督府專賣局事業概要 目次

附 專賣官署位置及管轄區域並煙草、鹽、人蔘及罌粟產地一覽圖
 專賣局所屬官署名稱位置表

| | | |
|---------|-------|-----|
| 事業の種類 | | (一) |
| 專賣益金 | | (一) |
| 煙草 | | (三) |
| 沿草 | | (三) |
| 耕作及收納 | | (四) |
| 煙草耕作組合 | | (一) |
| 葉煙草輸移出入 | | (二) |
| 煙草製造 | | (四) |
| 工場 | | (六) |
| 職工 | | (七) |
| 共濟組合 | | (四) |
| 製造煙草輸移入 | | (四) |
| 製造煙草販賣 | | (五) |
| 葉煙草販賣 | | (五) |

| | | |
|----------|-------|------|
| 煙草專賣取締 | | (四〇) |
| 人 | | (四一) |
| 沿 | | (四二) |
| 耕作及收納 | | (四三) |
| 紅蔘製造 | | (四四) |
| 紅蔘拂下 | | (四五) |
| 紅蔘副製品 | | (四七) |
| 白蔘 | | (四八) |
| 鹽 | | (四九) |
| 沿 | | (五〇) |
| 鹽田及生產 | | (五一) |
| 販賣 | | (五二) |
| 在來煎鹽及再製鹽 | | (五三) |
| 鹽輸移出入 | | (五四) |
| 阿片 | | (五五) |
| 沿 | | (五六) |
| 收 | | (五七) |
| 製 | | (五八) |
| 販 | | (五九) |

專賣局所屬官署名稱位置表 (其二)

昭和十年十二月末現在

Table with columns for '支局名' (Branch Name), '出張所名' (Sub-office Name), '販賣所名' (Sales Office Name), and '位置' (Location). It lists various branches and their sub-offices across different regions like 支城專賣支局, 元山出張所, 春川出張所, etc.



局 賣 專

朝鮮總督府專賣局事業概要

事業の種類

朝鮮總督府專賣局の事業は煙草、人蔘、鹽及阿片の四種とし、煙草、人蔘（紅蔘）竝醫藥川阿片及痲藥類の製造は政府の專賣に屬す。其の事業開始時期を示せば左の如し。

- 一 煙草 大正十年七月
- 一 人蔘（紅蔘） 舊韓國政府より繼承（沿革参照）
- 一 鹽（天日鹽） 同 上
- 一 阿片 大正八年六月（沿革参照）

專賣益金

專賣事業は制度創始以來順調に發達し漸次良好なる成績を擧げ、逐年膨脹する政府の財政に寄與するところ尠からず、將來益々事業の進展するに従ひ半島歳入の一大財源たるべし、各年度の益金を示せば左の如し。（△減）

| 年 度 | 煙 草 | 人 蔘 | 鹽 | 阿 片 | 計 |
|--------|-------------------------|---------------------|-----------------------|--------------------|------------------------|
| 昭和九年度 | 一八、三四五、三六一 ^四 | 三四九、〇五 ^四 | 一、二〇〇、九六 ^四 | 七七、七三 ^四 | 一九、八三三、九九 ^四 |
| 昭和八年度 | 一九、七七五、五七九 | 八八、七三 | 八四七、六〇八 | 二七二、八七二 | 三〇、九三三、八三〇 |
| 昭和七年度 | 一七、五九九、一四三 | 五九九、七七六 | 七〇七、七四 | △ 七五五 | 一八、八七五、九七 |
| 昭和六年度 | 二三、四八八、二九四 | 五七四、四四 | 七八三、二七九 | 四、八九三 | 二四、八四九、八七九 |
| 昭和五年度 | 一七、〇二五、四四〇 | 九〇七、四九六 | 五二七、七三三 | 二八、六三四 | 一八、五五九、二九三 |
| 昭和四年度 | 一五、五九三、〇二七 | 一、〇二五、五八八 | 一五九、八八二 | △ 五七、一二三 | 一六、六九〇、三七五 |
| 昭和三年度 | 一一、六六九、三三〇 | 一、三六一、四九六 | 三三三、四六 | — | 一三、一五三、一四三 |
| 昭和二年度 | 一三、一四九、四一九 | 一、〇七九、〇〇三 | 三三、四九〇 | — | 一四、三三〇、九一一 |
| 昭和元年度 | 一〇、八三六、七三四 | 一、七七〇、六三七 | 一三三、二五 | — | 一三、七九一、五七六 |
| 大正十四年度 | 七、六四〇、六九三 | 一、六三三、三七九 | 一九三、六四 | — | 九、四六六、七〇六 |
| 大正十三年度 | 六、二六八、四五〇 | 八六、四一 | 一四〇、四〇九 | — | 七、二五五、三〇〇 |
| 大正十二年度 | 四、七九六、三七 | 六三〇、一六三 | △ 二五〇、四九三 | — | 五、一六五、八九七 |
| 大正十一年度 | 五、七三六、四五一 | 六四四、〇六一 | 一三三、五三 | — | 六、五二六、〇六四 |
| 大正十年度 | 三、三二一、九六六 | 六七、八五一 | 三六六、五四九 | — | 四、二七、三六六 |

煙草

沿 草 山來朝鮮人の煙草に對する嗜好は、普遍的にして中年に達すれば之を喫せざるもの尠し、隨て煙草は古來普く各道に栽培せらるゝが故に、舊韓國政府は之に對する賦課を以て一大財源と爲し、將來專賣制度を布く方針の下に煙草耕作税を制定せり、而して同法は爾後屢々改正を見たるも當時未だ所期の效果を擧ぐるに至らず、仍て政府は大正三年に於て煙草製造工場の設置地域を限定すると共に製造煙草消費税を新設し、同七年更に之が改正を行ひ耕作税を廢止し葉煙草消費税を設け以て製造煙草との權衡を執りたり。

爾來時勢の進展に因り專賣實施の機運著しく促進せられ、大正十年四月一日朝鮮煙草專賣令を公布し七月一日より之を施行せり、然るに煙草の專賣は完全なる製造專賣を爲すに非ざれば所期の目的を貫徹すること能はずと雖、當時朝鮮の民度慣習等に鑑みるときは直に之を決行することを能ざるものあり、故に先づ煙草の製造を政府の事業とし、自家用煙草耕作の許可、民間荒刻煙草の製造及販賣の認許、全葉喫用煙草の賣渡等の例外を認め、漸を遂うて制度の完璧を期することとせり。

然るに其の後の實蹟に徴するに、自家用煙草耕作及民間荒刻煙草製造に關する犯則多くして、專賣收入を侵害すること甚大なるが故に、之等制度の撤廢方針に基き全葉喫用の慣習を漸次製造煙草に遷移せしむる爲、大正十二年來政府に於て簡易なる荒刻煙草の製造供給を爲したるに、大いに一般の嗜好に投じたるを以て全

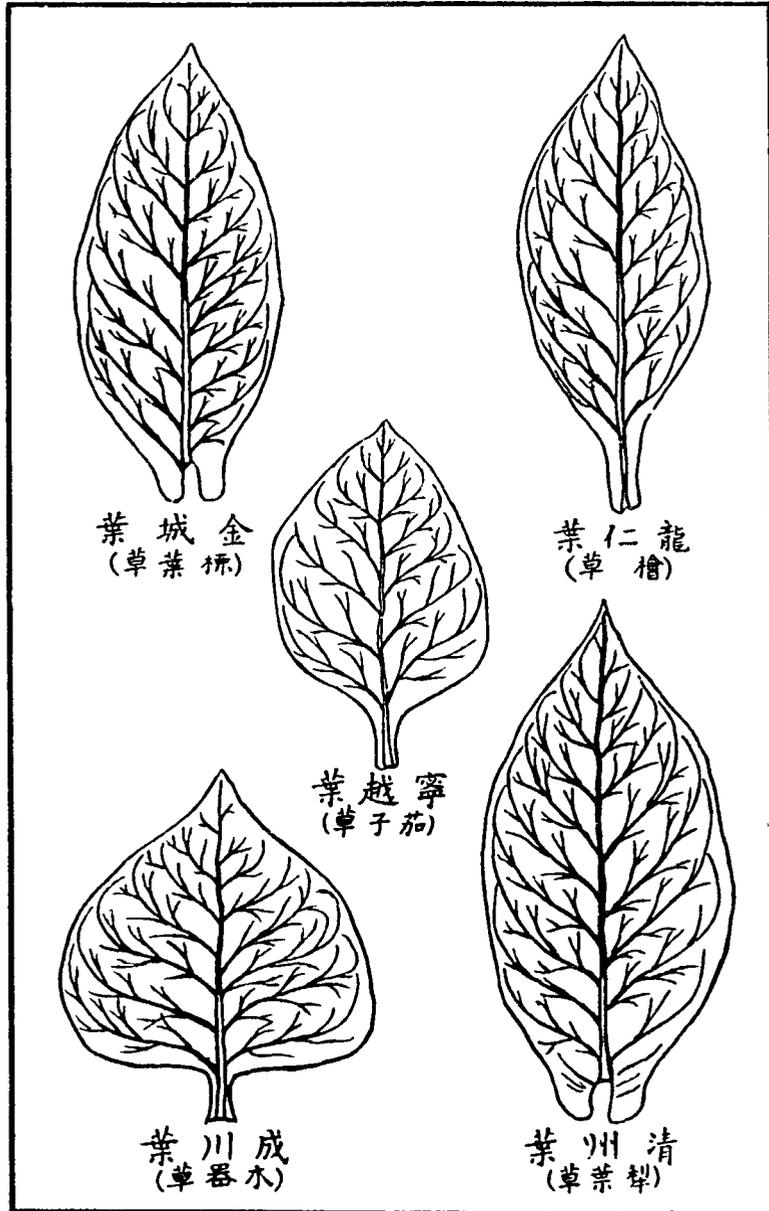
葉喫用煙草拂下の如きは、大正十二年度より事實に於て之を停止し居れるも需要者に對し不便を感じしむるが如きことなく、且自家用煙草耕作者も專賣實施の當時に比すれば著しく減少せるを以て、最早例外的制度を認むるの必要なく、又一面に於ては政府の製造設備も漸次整頓し販賣機關も普及して、之に代るべき下級煙草の製造供給上支障を感じざるに至りたるが故に、昭和二年一月朝鮮煙草專賣令を改正して、全葉喫用煙草の拂下は同月限り廢止し、自家用煙草竝に民間荒刻煙草の製造は昭和四年限り廢止し、茲に始めて完全なる專賣制度の確立を見るに至り亞で昭和六年七月一日より事務の適正敏活を期する爲更に從來の元賣捌制度を廢し之が直營を實施する事となれり。

耕作及收納 煙草專賣を實施したる大正十年度に於ける煙草耕作は、舊煙草稅令に依り免許したるものを其の儘認容することとし、面積朝鮮種八千三百六町歩、内地種一千八百六十一町歩、黄色種一千百三十六町歩、土耳其種四十五町歩、合計一萬一千三百四十八町歩なりしが、之等産地は各地に散在し、検査、收納及取締上頗る不便なりしのみならず、品質不良且産額僅少にして産地として不適當なる地方も尠からざりしを以て、大正十一年度及同十二年度に於て之等の地方を整理したるが、翌十三年度以降荒刻及兩切煙草の需要増加に伴ひ、之が原料たる朝鮮種及黄色種に不足を告ぐるに至りたるを以て、現産地内又は其の接續地に於て面積を擴張し、其の需要に應じ、又内地種は口付煙草の需要減少したるを以て極力産地を縮少し、尙土耳其種は品質不良にして原料として不適當なる爲其の耕作を廢止し、結局昭和九年度に於ける耕作面積は朝鮮



煙草畑ノ狀況

解圖徵特類種容內種鮮朝



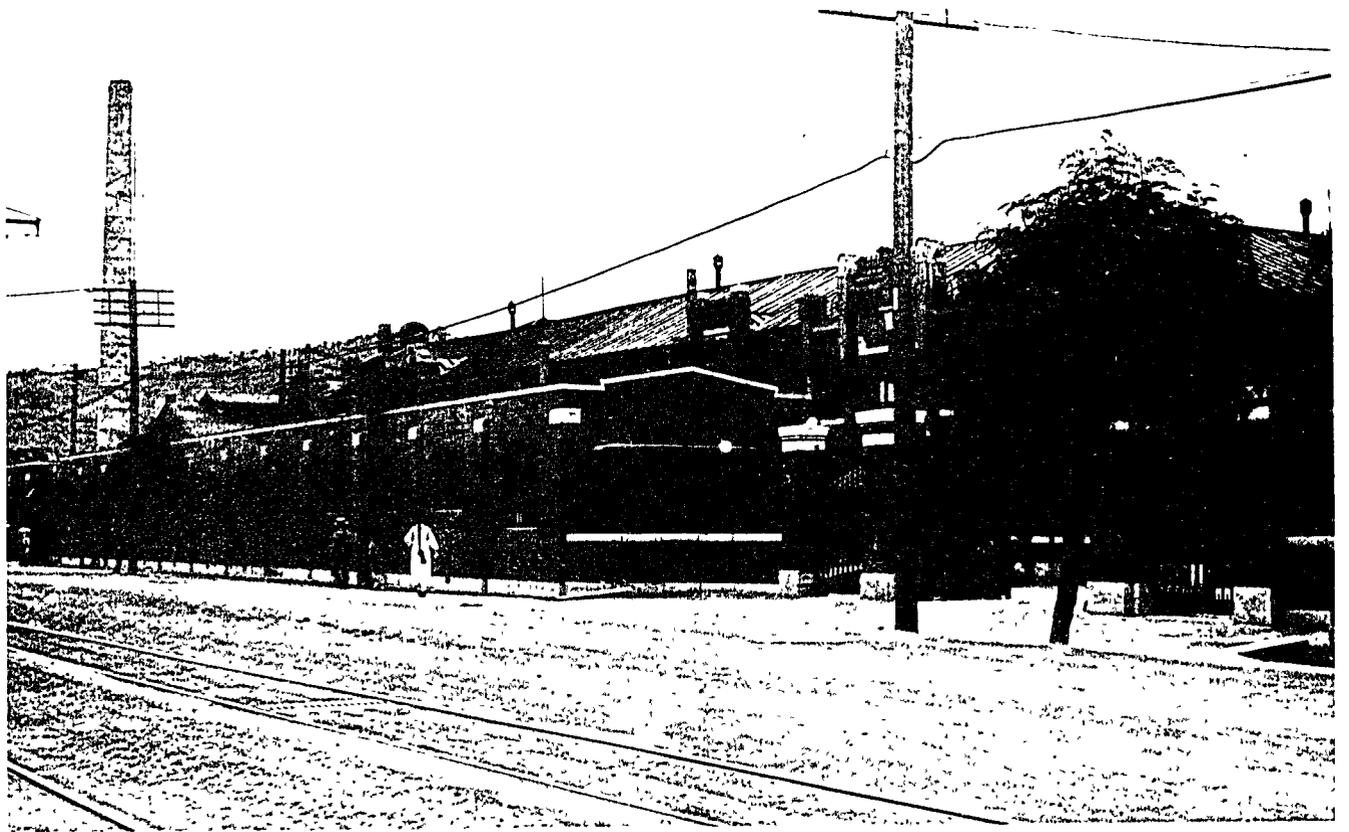
種一萬二千二百七十九町歩、内地種六百十二町歩、黄色種一千八百二町歩、この合計一萬四千六百九十三町歩となり、大正十年度に比し朝鮮種は三千九百七十三町歩、黄色種は六百六十六町歩を何れも増加し、之に反し内地種は一千二百四十九町歩、土耳其種は四十五町歩の減少を見たるも、總計に於ては實に三千三百四十五町歩の増加を示せり。

而して昭和九年度の煙草耕作區域は、平安北道、咸鏡南道及咸鏡北道を除きたる十道六十九郡三百二十六面に涉り、其の種類は内地種は秦野、水府の二種、朝鮮種は龍仁、清州、寧越、金城、淳昌、錦山、禮山、永川、安東、咸陽、河東、載寧、谷山、成川、陽德及孟山の十六種、黄色種は「ブライトエルロー」に統一し、種類及産地に依り異なるも大體毎年三、四月中に播種し、五、六月の頃本圃に移植し八、九、十月の候に於て收穫するものとす。

而して之が收納は毎年概ね十月より開始し翌年三月末迄に全部の終了を告ぐるものなるが、煙草産地は各地に散在するを以て、全鮮に於ける耕作地を其の集團の狀況及交通の便否等に鑑み、適當に之を區劃し其の地域に十五箇所葉煙草收納官署を置き、管轄區域内に於ける耕作指導及葉煙草收納に關する事項を取扱はしむる外、遠距離の地に在る耕作者の煙草納付上の利便を圖らむ爲更に收納取扱所七十三箇所を設けたり。各年度の實蹟左の如し。

耕作人員、面積、葉煙草收納高

| 年 度 | 耕作人員 | 耕作面積 | 葉 煙 草 收 納 高 | | | | | 計 |
|--------|---------|--------|-------------|------------|-----------|--------|------------|---|
| | | | 內地種 | 朝鮮種 | 黃色種 | 土耳其種 | | |
| 昭和九年度 | 八五、六九五 | 一四、六九三 | 九四〇、二六四 | 二、二六四、二四五 | 三、一九九、九六五 | — | 一五、四〇四、七四 | |
| 昭和八年度 | 七六、六四四 | 一三、五五六 | 八七〇、四〇〇 | 一三、〇六六、五六〇 | 二、六六六、四〇九 | — | 一六、五三三、五〇九 | |
| 昭和七年度 | 七七、八八一 | 一三、三三七 | 一、三三三、四一四 | 一五、三九二、七九四 | 三、八六六、〇〇四 | — | 一九、九三三、三二一 | |
| 昭和六年度 | 八九、六七八 | 一五、二三三 | 一、二二二、三三三 | 二、三二四、七九八 | 三、〇二〇、六三三 | — | 一六、四四〇、六九〇 | |
| 昭和五年度 | 九三、四九九 | 一四、三三八 | 四四五、九五八 | 一、五九五、七四四 | 二、〇五九、三〇六 | — | 一五、一〇〇、九三八 | |
| 昭和四年度 | 一三四、九七〇 | 一八、一七五 | 一、三三九、〇七一 | 三、〇一〇、八〇六 | 三、二七五、四七一 | — | 三四、五三三、三四五 | |
| 昭和三年度 | 一四九、七〇八 | 一九、九四一 | 一、九〇三、六九四 | 一五、八三七、三四四 | 三、二一九、九七八 | — | 二〇、八九九、九二五 | |
| 昭和二年度 | 一三三、七六八 | 一六、八三七 | 二、〇四八、五五四 | 二、六九九、六四四 | 二、六四三、二六七 | 五、三三五 | 一六、三九六、二九八 | |
| 昭和元年度 | 一〇六、九六八 | 一三、六九八 | 一、三九五、四三〇 | 六、六六六、〇四〇 | 一、九四三、八〇四 | 三、三三五 | 一〇、〇〇一、九〇六 | |
| 大正十四年度 | 九五、九七五 | 一三、八二三 | 一、二八三、四一九 | 七、一四三、七三三 | 一、八〇八、七九四 | 二、四九六 | 一〇、一七〇、九八三 | |
| 大正十三年度 | 八三、三五五 | 一一、九七三 | 一、八三六、八二八 | 六、八七八、三七〇 | 二、二六七、二〇八 | 四、七三〇 | 一〇、九八六、五三九 | |
| 大正十二年度 | 五〇、二七五 | 八、一四四 | 一、五八九、六四八 | 三、四二四、八六六 | 一、五八九、七〇〇 | 四、五三四 | 六、五九八、七四八 | |
| 大正十一年度 | 五九、三六六 | 七、三〇五 | 一、一九七、五五九 | 三、〇五三、五六八 | 一、〇三四、六三九 | 三、七四三 | 五、二八九、五二八 | |
| 大正十年度 | 八六、七七八 | 一一、三四八 | 一、五三三、四一〇 | 五、九三四、九九四 | 一、五五五、七四〇 | 一九、九〇九 | 九、〇三四、〇五三 | |



京 城 專 賣 支 局



兩切包裏詰作業狀況

一反平均收納高

| 年 度 | 内地種 | 朝鮮種 | 黄色種 | 上耳古種 | 各種平均 |
|--------|--------------------|-------------------|--------------------|----------------|--------------------|
| 昭和九年度 | 一五三・四 ^註 | 九二・九 ^註 | 一七七・八 ^註 | — ^註 | 一〇四・六 ^註 |
| 昭和八年度 | 一三六・八 | 一五九・九 | 一六三・四 | — | 一三三・三 |
| 昭和七年度 | 一八八・三 | 一三六・一 | 一九六・一 | — | 一四九・九 |
| 昭和六年度 | 一四七・八 | 九六・四 | 一六六・四 | — | 一〇八・〇 |
| 昭和五年度 | 九〇・四 | 一〇三・〇 | 一四六・六 | — | 一〇六・一 |
| 昭和四年度 | 一三五・六 | 一三七・九 | 一三三・八 | — | 一三五・〇 |
| 昭和三年度 | 一二六・三 | 一三三・〇 | 一〇五・九 | — | 一〇四・六 |
| 昭和二年度 | 一二八・九 | 八五・五 | 一四一・一 | 五四・四 | 九七・五 |
| 昭和元年度 | 九三・四 | 六二・九 | 一三六・八 | 四九・八 | 七三・一 |
| 大正十四年度 | 七六・九 | 七三・九 | 一六六・六 | 三六・四 | 七九・五 |
| 大正十三年度 | 一〇三・五 | 七三・三 | 一七九・九 | 四九・一 | 九一・九 |
| 大正十二年度 | 九三・四 | 六五・六 | 一三三・八 | 五六・六 | 八一・〇 |
| 大正十一年度 | 八一・九 | 六三・三 | 一〇〇・六 | 四一・六 | 七三・五 |

大正十年度

八二・四

九〇・一

一三六・九

四三・一

七九・五

葉煙草賠償金高

| 年 度 | 内地種 | 朝鮮種 | 黄色種 | 土耳其種 | 計 |
|--------|-----------|-----------|-----------|-------|-----------|
| 昭和九年度 | 三三三、二一四 | 二、九八五、四九二 | 一、九〇一、三三三 | 一 | 五、三三一、九三九 |
| 昭和八年度 | 二六五、三六五 | 三、九五三、三三三 | 一、六四四、六四三 | 一 | 四、八六三、三三九 |
| 昭和七年度 | 四三六、一六八 | 三、六二二、二六九 | 一、八〇〇、三六七 | 一 | 五、八六七、八三四 |
| 昭和六年度 | 三七〇、五〇八 | 三、八一九、一四三 | 一、六二二、二二二 | 一 | 四、八〇一、七六三 |
| 昭和五年度 | 一九七、二八三 | 二、三〇六、九〇四 | 一、一八七、九三三 | 一 | 四、五九一、一三三 |
| 昭和四年度 | 四六四、九八六 | 四、九四一、七九五 | 一、四二四、〇五六 | 一 | 六、八二三、八三九 |
| 昭和三年度 | 八三四、三五五 | 四、六四一、三四四 | 一、七六九、三三三 | 一 | 七、二七七、八三四 |
| 昭和二年度 | 一、〇〇二、五三三 | 三、九〇二、八四六 | 一、六二二、六三三 | 三、二九六 | 六、六〇二、三三〇 |
| 昭和元年度 | 七五五、九九四 | 二、〇七七、七三九 | 一、一三三、四六六 | 二、〇八六 | 三、九九九、二八五 |
| 大正十四年度 | 六六七、七九二 | 二、〇八九、五九七 | 一、〇六四、七九四 | 一、五〇八 | 三、八三三、六九二 |
| 大正十三年度 | 八九七、四七一 | 三、〇七八、三三三 | 一、三四三、九〇三 | 二、六五七 | 四、三三一、二六六 |
| 大正十二年度 | 八八九、七八〇 | 一、〇六一、五二九 | 九三〇、六六八 | 二、六四〇 | 二、九〇五、〇二七 |

| 年 度 | 内地種 | 朝鮮種 | 黄色種 | 土耳其種 | 各種平均 |
|--------|-------------------|--------------------|--------------------|---------|--------------------|
| 大正十一年度 | 六四、一〇三 | 九二、〇八一 | 五四、〇六二 | 二、二八九 | 三、一〇五、五五〇 |
| 大正十年度 | 八四、八三三 | 一、七三、三三三 | 八四、七五四 | 一、三、二四八 | 三、四三三、〇六五 |
| 昭和九年度 | 五、七三 ^円 | 二四、三三 ^円 | 一、五、五 ^円 | — | 三、五、五 ^円 |
| 昭和八年度 | 六、六六 | 二六、三三 | 〇、九五 | — | 三、五、六六 |
| 昭和七年度 | 六、六六 | 三三、〇四 | 一、〇、六六 | — | 四、三、九五 |
| 昭和六年度 | 四、四四 | 三三、〇九 | 九、七六 | — | 三、三、三三 |
| 昭和五年度 | 五、九九 | 二六、〇一 | 八、四九 | — | 三、三、六六 |
| 昭和四年度 | 四、七三 | 三三、三三 | 九、二四 | — | 三、七、四九 |
| 昭和三年度 | 五、〇五 | 二七、九〇 | 一、六、八一 | — | 三、六、五〇 |
| 昭和二年度 | 六、七三 | 二六、五六 | 一、二、四〇 | 三、四、三三 | 三、九、二一 |
| 昭和元年度 | 五、〇三 | 一九、三三 | 八、〇一 | 二、九、六六 | 二、八、九八 |
| 大正十四年度 | 四、三六 | 二二、六〇 | 六、六六 | 二、二、五五 | 二、九、八四 |
| 大正十三年度 | 五、〇五 | 三三、三三 | 一、〇、〇四 | 三、〇、九〇 | 三、六、一〇 |

反平均賠償金高

| | | | | |
|--------|-------|------|-------|-------|
| 大正十二年度 | 三〇・七六 | 六・九六 | 三三・〇〇 | 三三・七六 |
| 大正十一年度 | 一八・六六 | 五・四七 | 二五・四三 | 二八・九五 |
| 大正十年度 | 二〇・一九 | 七・四三 | 二八・八〇 | 三〇・〇九 |

一貫當又は疋當平均賠償金高

| 年 度 | 内地種 | 朝鮮種 | 黄色種 | 土耳其種 | 各種平均 |
|--------|------|-------------------|------|------|------|
| 昭和十二年度 | 三〇・四 | 二六・四 _厘 | 三三・九 | — | 二九・三 |
| 昭和十一年度 | 三三・八 | 二二・五 | 三三・五 | — | 二九・三 |
| 昭和十年度 | 三三・三 | 二二・九 | 三三・六 | — | 二九・三 |
| 昭和九年度 | 三三・三 | 二二・九 | 三三・六 | — | 二九・三 |
| 昭和八年度 | 三三・三 | 二二・九 | 三三・六 | — | 二九・三 |
| 昭和七年度 | 三三・三 | 二二・九 | 三三・六 | — | 二九・三 |
| 昭和六年度 | 三三・三 | 二二・九 | 三三・六 | — | 二九・三 |
| 昭和五年度 | 三三・三 | 二二・九 | 三三・六 | — | 二九・三 |
| 昭和四年度 | 三三・三 | 二二・九 | 三三・六 | — | 二九・三 |
| 昭和三年度 | 三三・三 | 二二・九 | 三三・六 | — | 二九・三 |
| 昭和二年度 | 三三・三 | 二二・九 | 三三・六 | — | 二九・三 |
| 昭和元年度 | 三三・三 | 二二・九 | 三三・六 | — | 二九・三 |
| 大正十四年度 | 三三・三 | 二二・九 | 三三・六 | — | 二九・三 |
| 大正十三年度 | 三三・三 | 二二・九 | 三三・六 | — | 二九・三 |
| 大正十二年度 | 三三・三 | 二二・九 | 三三・六 | — | 二九・三 |
| 大正十一年度 | 三三・三 | 二二・九 | 三三・六 | — | 二九・三 |
| 大正十年度 | 三三・三 | 二二・九 | 三三・六 | — | 二九・三 |

| | | | | | |
|--------|-----|------|-----|------|------|
| 大正十三年度 | 四・八 | 三〇・一 | 五・三 | 三〇・九 | 三・三 |
| 大正十二年度 | 五・一 | 三三・七 | 五・九 | 五・一 | 四〇・〇 |
| 大正十一年度 | 五・六 | 三九・九 | 五・八 | 六・一 | 三九・七 |
| 大正十年度 | 五・七 | 二六・八 | 五・一 | 六・七 | 三九・九 |

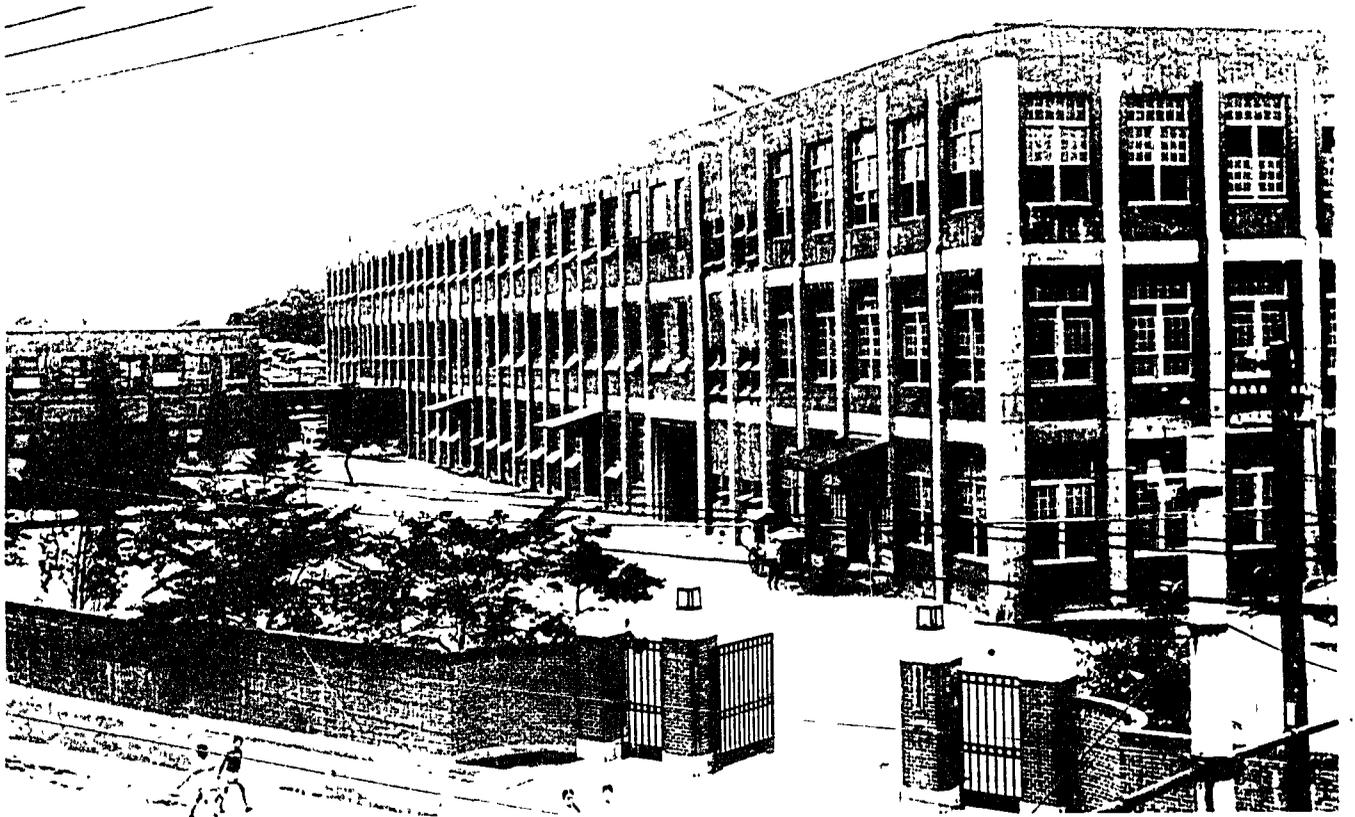
煙草耕作組合 煙草耕作の改良發達を圖り兼て耕作者の經濟狀態を向上せしめ其の福利増進を計る目的を以て、從來煙草の主産地に耕作組合を組織せしめしが、專賣令の實施に伴ひ政府は組合に對し交付金を下付し、專賣事務執行上必要なる施設又は補助を爲すべきことを命じ得ることとなり、元來朝鮮に於ける煙草耕作者は極めて幼稚にして、政府に提出すべき申請、申告等の書類を完全に作成し得る者は甚だ僅少なるに付、政府は組合をして之等の書類を調製せしめ、又政府に於ける耕作指導の徹底を期する爲組合に相當の職員を置き、政府の指示に基き各耕作者の指導及政府に於ける煙草植付検査、收量調査及收納事務の補助其他犯則の豫防を爲さしめ、一面に於ては耕作資金を低利に借入れ之を耕作者に融通し、或は肥料農具等を共同購入し或は苗床、本圃、收穫葉煙草等の品評會を開催する等專賣事業に寄與すること尠からず、昭和九年度に於ては組合數四十二、組合人員八萬五千六百九十人、耕作面積一萬四千六百九十二町歩となり、交付金は三十二萬五千三百九十一圓に上れり、各年度の狀況左の如し。

| 年 度 | 組 合 數 | 耕 作 人 員 | 耕 作 面 積 | 交 付 金 |
|-------------|-------|---------------------|---------------------|--------------------|
| 昭 和 九 年 度 | 四三 | 八五、六九〇 _人 | 二四、六九三 _町 | 三五、九一 _円 |
| 昭 和 八 年 度 | 四二 | 七六、六五八 | 二三、五五七 | 二八、一六八 |
| 昭 和 七 年 度 | 四二 | 七七、八三七 | 二三、六三六 | 二八、一六八 |
| 昭 和 六 年 度 | 四三 | 八九、六三三 | 二五、三三三 | 二八、一六八 |
| 昭 和 五 年 度 | 四三 | 九三、四三九 | 二四、三三七 | 二九、二六三 |
| 昭 和 四 年 度 | 四四 | 一三四、九六五 | 二八、一七五 | 二八、三五七 |
| 昭 和 三 年 度 | 四四 | 一四九、六三三 | 一九、九四〇 | 二八、〇六一 |
| 昭 和 二 年 度 | 四三 | 一三三、三三八 | 一六、七八五 | 二六、七九〇 |
| 昭 和 元 年 度 | 四三 | 一〇六、九七七 | 一三、六九八 | 二四、二一九 |
| 大 正 十 五 年 度 | 四三 | 九六、〇三〇 | 一二、八二五 | 二三、三三〇 |
| 大 正 十 四 年 度 | 四三 | 八三、二九〇 | 一一、九七一 | 二八、七五一 |
| 大 正 十 三 年 度 | 四三 | 五〇、三三五 | 八、二二三 | 二四、二四五 |
| 大 正 十 二 年 度 | 四三 | 五九、四一一 | 七、三〇五 | 二七、七三三 |
| 大 正 十 一 年 度 | 四三 | 八七、六六六 | 一一、五五五 | 二四、四六七 |

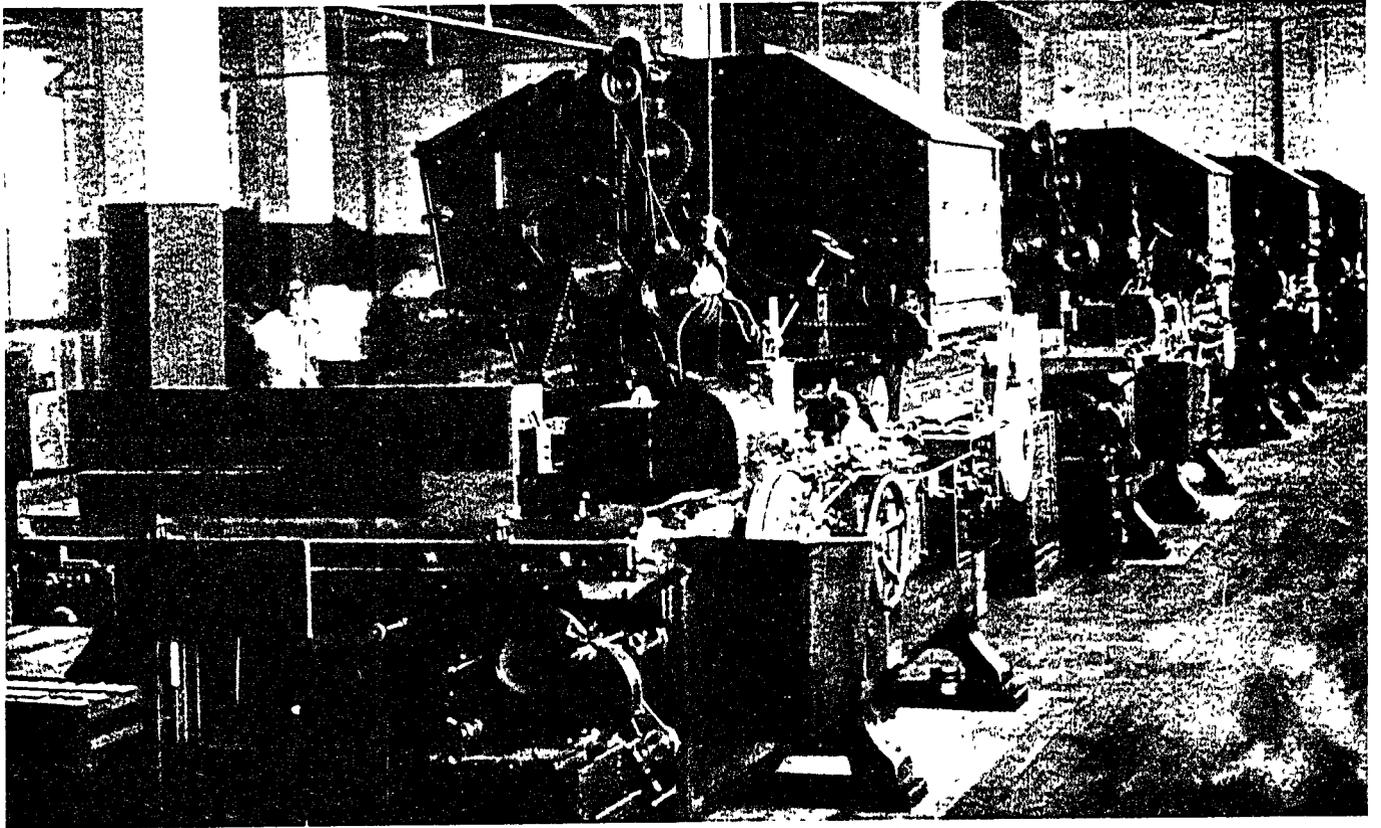
葉煙草輸移出入 製造原料に使用すべき葉煙草は、成るべく朝鮮種を以て充當する方針なるも、上級製造

煙草は獨り之のみを以て製造すること能はざるが故に毎年度若干輸移入せしが、本年度に於ては此の外荒刻煙草の原料として當業者より當該原料を購入せり、又朝鮮産の葉煙草にて製造原料に過剩あるときは之を賣渡し輸移出せしめたり。

| 年 度 | 輸 移 入 | | 輸 移 出 | |
|--------|----------------------|----------------------|--------------------|--------------------|
| | 數 量 | 價 額 | 數 量 | 價 額 |
| 昭和九年度 | 八、四六、四五 _正 | 五、四一、九六 _円 | 六四、七五 _正 | 四三、六九 _円 |
| 昭和八年度 | 一、八三、八九 | 一、六四、八四 | 一、三九、五一 | 八〇八、九三 |
| 昭和七年度 | 一、三三、九〇 | 七三、九二 | 一、五五、七六 | 一、〇三六、七三 |
| 昭和六年度 | 一、七〇、八六一 | 一、〇五、六七 | 八七、〇五 | 六二、五三 |
| 昭和五年度 | 三、六〇、三三 | 三、〇七、四五 | 一、二六、六八 | 七七、一〇 |
| 昭和四年度 | 三、七四、五三 | 二、八四、八六 | 九四、九六 | 六九、三九 |
| 昭和三年度 | 五、五四、二四 | 三、六八、二七 | 四七、三三 | 三九八、八八 |
| 昭和二年度 | 六、九三、〇一 | 三、七六、七八 | 三〇〇、二〇 | 三三、四五 |
| 昭和十元年度 | 八、三九、三五 | 三、六四、七九 | 八五、八三 | 七四、〇四 |
| 大正十四年度 | 二、〇二、七八 | 一、九七、六七 | 八三六、九三 | 七三、七九 |



場工通州義局支賣專城京



機 上 卷 切 兩

| 年 度 | 煙 草 | 製 造 | 高 | 切 | 細 | 刻 | 荒 刻 |
|--------|-----------|---------|------------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 昭和七年度 | 一五八、〇五五 | 六〇三、六三三 | 一五、三六六、〇五九 | 一、八五九、四〇〇 | 九三〇、二九三 | 一、〇五八、一八三 | 一九、九九六、一八三 |
| 昭和六年度 | 一八九、五五五 | 七七、六八六 | 一四、三三三、六六八 | 一、八一六、九三三 | 六〇六、八六六 | 一、五〇〇、五〇三 | 一九、一五四、一九三 |
| 昭和五年度 | 五六、六四四 | 三六六、八七四 | 一四、七二三、八〇四 | 二、三三六、四〇三 | 七六六、七二六 | 一、五五〇、六六六 | 三〇、三三三、二三六 |
| 昭和四年度 | 一、四四四、六四四 | 六〇一、二六四 | 一、七四三、六二六 | 一、八九九、四八四 | 一、三三四、三三三 | 一、九一六、〇八一 | 一八、九七九、四三三 |
| 昭和三年度 | 三、五八、八四三 | 五五八、一三三 | 七、三三九、三五九 | 一、六四五、八六〇 | 一、一七四、二〇四 | 三、四四九、五七六 | 一六、六八五、八五五 |
| 昭和二年度 | 三、三七六、六八九 | 五七六、三二一 | 五、六五一、六九三 | 一、二六七、七四四 | 一、〇八三、五五二 | 四、六〇九、四八一 | 一五、五五八、三四九 |
| 昭和元年度 | 三、七〇〇、四八一 | 四八〇、四三〇 | 八、〇九〇、一七三 | 一、〇〇八、九六〇 | 一、三三三、六七九 | 五三四、六〇〇 | 一五、五五八、三四九 |
| 大正十四年度 | 一、四三七、七二三 | 四四七、四三九 | 五、三四三、六四九 | 八六三、三三四 | 一、七二一、九六五 | 五七八、三三三 | 二〇、三八二、三三三 |
| 大正十三年度 | 九六六、五七八 | 三七四、七七九 | 四、三九〇、四三二 | 六八二、〇三八 | 一、四〇三、四七八 | 二九二、七三九 | 八、〇〇八、〇三三 |
| 大正十二年度 | 五三二、〇七四 | 二九二、七六六 | 三、七二七、二九三 | 五六七、五八一 | 一、三三四、七六一 | 五〇三、八六八 | 六、九一六、四三三 |
| 大正十一年度 | 六九一、〇五四 | 三六八、七六〇 | 一、四九一、〇五三 | 四七六、九七八 | 一、三〇六、五八〇 | 三六八、五九二 | 四、七〇三、九六六 |
| 大正十年度 | 四四三、五二六 | 二七五、七七四 | 一、二三三、九七〇 | 四五六、六三三 | 八六四、七八〇 | 一七六、五六一 | 三、三三九、三三三 |

昭和九年度 口付 雨切 細刻 荒刻
 一七六、四〇〇千本 四、五九二、三三三千本 三〇、三七五千本 二六、八〇一、九九五千本

| | | | | |
|-------|-----------|-----------|---------|------------|
| 昭和八年 | 一九一、二四三 | 三、六三七、一四五 | 二八、四三三 | 一六、〇九五、五四五 |
| 昭和七年 | 二七七、二〇〇 | 三、二三七、九六八 | 三三、八七三 | 一四、八四一、八六八 |
| 昭和六年 | 三二七、七三〇 | 三、〇八九、五六六 | 三九、七五九 | 一四、二九四、四五六 |
| 昭和五年 | 五〇四、七〇〇 | 三、四九一、四〇六 | 四三、二〇三 | 一四、九七三、七三二 |
| 昭和四年 | 七四一、五七九 | 三、九五六、八〇四 | 五四、九九〇 | 一三、三九九、九五八 |
| 昭和三年 | 七三九、一〇六 | 三、七〇三、九八一 | 六〇、六六〇 | 一一、四七九、四四四 |
| 昭和二年 | 七六四、三六〇 | 三、五〇三、六四八 | 六七、〇七〇 | 一〇、九六一、二四四 |
| 昭和十五年 | 七四五、五〇〇 | 三、五二一、〇三三 | 六七、七三五 | 一〇、七九六、一六〇 |
| 大正十四年 | 九七六、七四〇 | 三、五七三、九七九 | 八六、一〇八 | 五、三九一、三六七 |
| 大正十三年 | 八五三、〇八〇 | 三、一八五、三〇三 | 七六、五〇〇 | 三、八二六、四三三 |
| 大正十二年 | 一、〇六九、六六〇 | 二、八九四、六三九 | 一一五、二五五 | 二、五三六、七四二 |
| 大正十一年 | 一、六四五、五四〇 | 二、三七〇、三六〇 | 八七、〇九八 | 三、五二、一九三 |
| 大正十年 | 九八四、九〇〇 | 二、〇三九、九一四 | 七三、二二三 | — |

備考 本表には特製品、見本品等を含まず

工場 煙草製造工場は京城、全州、大邱、平壤の各支局所在地に印刷工場は京城に設置したるも、

之等の工場は創業當時民間の工場を徴收襲用せるものなるを以て、設備甚だ不完全にして直に之を官營工場と爲すに適せず加之煙草の需用逐年増加するに伴ひ、數年度に亙り京城、大邱、全州の各工場の新築又は増築を行ひ、内外設備の充實、作業能率の増進を計れり、各工場の坪數を擧ぐれば左の如し。

| 工場名 | 作業用建物 | 附屬建物 | 計 |
|--------------------------|-------|-------|-------|
| 本局印刷工場 | 400坪 | 23坪 | 421坪 |
| 京城支局 (仁義洞工場 義州通工場) | 2,028 | 57 | 2,505 |
| 全州支局工場 | 3,403 | 1,123 | 4,526 |
| 大邱支局工場 | 1,326 | 410 | 1,736 |
| 平壤支局工場 | 3,762 | 1,330 | 5,092 |
| 總計 | 1,077 | 190 | 1,267 |
| | 2,925 | 3,690 | 5,615 |

而して各工場を通じ年額口付二億五千萬本、兩切四十五億萬本、細刻五萬四千疋、荒刻一千三百七十萬疋印刷四六版四千五百萬枚通しの製造能力を有するに至れり。

職工 專賣創業當時に於ける職工は、民間營業者の従業員を大部分採用したるものにして、其の後手工業を機械作業に改めたと能率の増進に依り、各年度之を減少したるが荒刻煙草増製の爲大正十四年度

以降少数増員し昭和九年度末現在は男工千二百二十人、女工千七百八十六人、計二千五百六十六人となれり、今各種の状況を観るに、其の最多數を占むるは三十歳未満の三九%にして二十歳未満の三四%之に亞き四十歳未満の一五%十五歳未満の七%四十歳以上は五%の順位とす、而して創業以來の勤続者は總數の約一割を算す、尙職工の教育程度は創業當時に於ては無學者八割以上なりしが、爾來採用方針の確立、補習教育の施行等に依り漸次良好の成績を示し昭和七年度末に於ては無學者は一割に減少したり。

就業時間は一且十時間(内一時間を食事休憩等に充つ)を原則とし、特殊の場合に限り二時間以内の延長を認む、工期は民營當時は職工の素質良好ならざりしに加へ、不規律なる工場生活に慣れし爲、創業當時は能率低かりしが、爾來職工の待遇を改善すると共に、一面に於ては風紀を刷新し且つ素質の改善を期し、銳意工場管理に努めたるを以て、漸次能率の向上を觀、内地に於ける同業職工に比し敢て遜色なきに至れり、而して給料は作業の種類に應じ日給又は工期拂とし、其の所得は能率の昇進に伴ふて増加し、加ふるに賞與制度、保護救済、衛生及醫療、補習教育及修養、獎勵慰安、日用品の共同購入等の施設完備し、職工の福祉増進に努め待遇至らざるなきを以て、最も良好なる印象を與へ各其の堵に安んじ忠實熱心に就業し逐年優良なる成績を示し、殊に往年民營當時數々起りたる賃銀値上運動、同盟罷業の如きは專賣實施以來全く其の跡を斷つに至れり。

職 工 數

| 年 度 | 男 | 女 | 計 |
|--------|--------|--------|--------|
| 昭和九年度 | 一、二三〇人 | 一、七六六人 | 二、九〇六人 |
| 昭和八年度 | 一、〇六九 | 一、五〇五 | 二、五七四 |
| 昭和七年度 | 一、一三三 | 一、三三〇 | 二、四六三 |
| 昭和六年度 | 一、二四二 | 一、三六一 | 二、五五三 |
| 昭和五年度 | 一、三六六 | 一、四八三 | 二、八四九 |
| 昭和四年度 | 一、四六五 | 一、六九四 | 三、一五九 |
| 昭和三年度 | 一、五五六 | 一、四九八 | 三、〇五六 |
| 昭和二年度 | 一、七五五 | 一、三七一 | 三、一三六 |
| 昭和元年度 | 一、八七九 | 一、〇三三 | 二、九一三 |
| 大正十四年度 | 一、九六一 | 六九〇 | 二、六七一 |
| 大正十三年度 | 一、九三三 | 四五六 | 二、三八六 |
| 大正十二年度 | 二、五二一 | 五九五 | 三、一〇六 |
| 大正十一年度 | 三、六八八 | 八八八 | 四、六〇六 |
| 大正十年度 | 四、三七七 | 九二七 | 五、三〇四 |

職工一人一日(十時間當)平均給料所得

| 年 度 | 印 刷 | 口 付 | 兩 切 | 細 刻 | 荒 刻 | 平 均 |
|--------|--------------------|-------------------|-------------------|--------------------|-------------------|-------------------|
| 昭和九年度 | 一・三〇九 ^円 | ・九五〇 ^円 | ・七三九 ^円 | 一・九七七 ^円 | ・八六四 ^円 | ・八二七 ^円 |
| 昭和八年度 | 一・三〇七 | ・九四四 | ・八三二 | 一・〇七四 | ・八五五 | ・八八四 |
| 昭和七年度 | 一・二四七 | ・九四一 | ・八五四 | 一・一九四 | ・八七九 | ・八九〇 |
| 昭和六年度 | 一・二七一 | ・八九〇 | ・八九五 | 一・二二一 | ・八八八 | |
| 昭和五年度 | 一・二六七 | ・八三三 | ・八八四 | ・九四一 | ・八三三 | |
| 昭和四年度 | 一・二〇七 | ・七八六 | ・九〇九 | 一・二一九 | ・七六七 | |
| 昭和三年度 | 一・一八三 | ・七六六 | ・九〇一 | 一・〇四八 | ・七三〇 | |
| 昭和二年度 | 一・三〇八 | ・八三五 | ・八七六 | 一・〇三三 | ・六九一 | |
| 昭和元年度 | 一・三二五 | ・八三〇 | ・六二五 | 一・〇二五 | ・六七〇 | |
| 大正十四年度 | 一・二三四 | ・八二四 | ・九五三 | 一・〇三五 | ・六七六 | |
| 大正十三年度 | 一・〇六二 | ・七七六 | ・八九九 | 一・〇三五 | ・六四三 | |
| 大正十二年度 | 一・〇六六 | ・七一一 | ・八四六 | ・八八七 | ・六四四 | |
| 大正十一年度 | ・九六四 | ・六〇七 | ・七三四 | ・八四三 | ・五七一 | |
| 大正十年度 | 一・二四三 | ・五五九 | ・七三三 | ・七六四 | | |

主要分業専務職工一人一日(十時間當)平均功程
 (自大正十年度至昭和二年度)



平壤專賣支局



全 州 專 賣 支 局

| 作 | 業 | 名 | 區 | 分 | 功 | 程 | 口付 | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|------|------|------|--------|-------|--------|---------|--------|-------|-------|------|-------|------|---|
| | | | | | | | 葉 | 積 | 截 | 填 | 仕 | 卷 | 鞘 | 包 | 包 | 包 | 葉 | 除 | 加 | 南 |
| 業 | 名 | 區 | 分 | 功 | 程 | 位 | 葉 | 積 | 截 | 填 | 仕 | 卷 | 鞘 | 包 | 包 | 包 | 葉 | 除 | 加 | 南 |
| 大 | 正 | 十 | 大 | 正 | 十 | 大 | 一八〇 | 九〇 | 二二〇 | 二二,〇〇〇 | 二,八〇〇 | 一 | 二九,一〇〇 | 一,四二六 | 二,三〇五 | 六四 | 九 | 六四 | 三三 | |
| 大 | 正 | 十 | 大 | 正 | 十 | 大 | 二八・四 | 一一・三 | 一六・一 | 一三,一八〇 | 三,五九〇 | 一 | 一七,一〇〇 | 二,一六九 | 二,八三三 | 六・九 | 九・九 | 八五・一 | 二五・六 | |
| 大 | 正 | 十 | 大 | 正 | 十 | 大 | 三五・二 | 一一・三 | 二二・〇 | 一五,三〇〇 | 四,五〇〇 | 一五,一〇〇 | 三五四,九〇〇 | 一四,五二三 | 三,八九〇 | 九三・四 | 一一・一 | 一一・二 | 三三・一 | |
| 大 | 正 | 十 | 大 | 正 | 十 | 大 | 三五・二 | 一一・七 | 三二・七 | 一六,三〇〇 | 五,八〇〇 | 二六,五〇〇 | 三二七,七〇〇 | 一一,七三〇 | 四,四五六 | 一一七・一 | 一一・四 | 一〇三・六 | 四三・一 | |
| 大 | 正 | 十 | 大 | 正 | 十 | 大 | 三九・二 | 一四・三 | 三九・四 | 一六,〇〇九 | 六六五 | 二九,三三〇 | 三九,八七三 | 一九,二六九 | 五,〇八五 | 一四五・四 | 一三・八 | 一一三・四 | 五四・五 | |
| 大 | 正 | 十 | 大 | 正 | 十 | 大 | 三三・七 | 一一・〇 | 二七・九 | 一四,七一九 | 六,五六九 | 三〇,四三 | 二四,二〇〇 | 二〇,〇五九 | 四,九〇一 | 一七〇・四 | 一〇・七 | 一一・九 | 五三・五 | |
| 昭 | 和 | 二 | 昭 | 和 | 二 | 昭 | 三五・四 | 二・八 | 三五・二 | 一五,九〇〇 | 六,三三一 | 三二,七五六 | 二四八,六〇〇 | 七二,五九四 | 三,四九四 | 一七八・三 | 九・四 | 一一九・二 | 四七・〇 | |

| 作 業 名 | 區 分 | 功 程 單 位 | 主要分業專務職工一人一日(十時間當)平均功程 (自昭和九年度) | | | | | | | | | | | | |
|----------|-------|------------|------------------------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|---|---|---|
| | | | 昭 三 年 度 | 昭 四 年 度 | 昭 五 年 度 | 昭 六 年 度 | 昭 七 年 度 | 昭 八 年 度 | 昭 九 年 度 | 和 三 年 度 | 和 四 年 度 | 和 五 年 度 | | | |
| 乾 燥 冷 却 | 日 給 者 | 貫 | 〇 | 九六・九 | 一八一・五 | 三三一・四 | 三五八・九〇〇 | 三九七・九 | 三六一・三 | | | | | | |
| | | | 卷 上 | 日 給 者 | 本 | 四九、八〇〇 | 六、三〇〇 | 八七、六〇〇 | 九三、九〇〇 | 一八、一九四 | 一〇六、三〇〇 | 九七、四九五 | | | |
| 包 裹 貼(手) | 功 程 者 | 個 | 二、〇三三 | 二、四八二 | 四、二四七 | 五、三〇三 | 六、四六一 | 五、七九五 | 五、四三九 | | | | | | |
| | | | 中 包 紙 包 裹 詰 | 功 程 者 | 個 | 二、三六〇 | 一、六六六 | 二、一七一 | 二、四九三 | 二、七四七 | 二、五〇六 | 二、四八七 | | | |
| 除 骨 | 日 給 者 | 草 | 二 | 二 | 二・一 | 三・一 | 二・九 | 二・五 | 二・六 | | | | | | |
| | | | 積 葉 | 日 給 者 | 草 | 九 | 三 | 二・八 | 二・七 | 二・八 | 二・一 | 一〇・一 | | | |
| 荒 刻 | 日 給 者 | 貫 | 二 | 三 | 二・九 | 二・七 | 二・八 | 三・〇 | 三・三 | | | | | | |
| | | | 葉 剥 | 日 給 者 | 杯 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 荒 刻 | 日 給 者 | 貫 | 一 | 二・七 | 五・五 | 六・三 | 七・二 | 八・七 | 八・九 | | | | | | |
| | | | 自 封 紙 貼 | 日 給 者 | 個 | 一 | 一 | 七・三 | 一、〇三三 | 九・四 | 九七・六 | 九四・三 | | | |

主要分業專務職工一人一日(十時間當)平均功程 (自昭和九年度)

| | | 兩切 | | 口付 | | | | |
|--------|--------|--------|-------------|--------|---------|--------|---------|--------------------------|
| 中包紙包裹詰 | 功程者個 | 二,四〇〇 | 二,四八七 | 二,五三九 | 二,七〇五 | 二,六九六 | 一,七六二 | 二,五七三 |
| 包裹貼(手) | 功程者個 | 五,〇三三 | 機手 二,三六九 | 一九,四四九 | 七,九二五 | 八,一七六 | 八,九〇四 | 七,三六六 |
| 卷上 | 日給者本 | 九九,三三〇 | 一〇〇,四三〇 | 三〇,七七〇 | 一五,九四六〇 | 一八,三九九 | 一八九,三三〇 | 三三,六九六 |
| 乾燥冬却 | 日給者貫 | 二八八・三 | 二六五・五 | 二九五・一 | 三五七・五 | 四〇四・九 | 四二七・一 | 一八九,六〇八 <small>座</small> |
| 截 | 刻日給者杯 | 五二・二 | 六三・一 | 七三・三 | 九九・三 | 二〇〇・一 | 二二九・〇 | 一,五六五・八 |
| 加 | 香日給者杯 | 二二九・一 | 二二・三 | 二四三・〇 | 二四三・三 | 二四四・六 | 一三六・九 | 八四・八 |
| 除 | 骨日給者杯 | 一一・三 | 一一・七 | 一一・九 | 一九・五 | 三三・一 | 三二・四 | 一一五・一 |
| 葉 | 組日給者貫 | 二七〇・九 | 二四三・八 | 一四〇・六 | 二五五・七 | 二五八・一 | 二四三・八 | 二二・〇 |
| 包裹 | 詰功程者個 | 三,八二三 | 三,八四八 | 四,一三三 | 四,六〇六 | 四,七〇〇 | 三,三三六 | 五,六六六 <small>座</small> |
| 包裹貼 | 機手功程者個 | 三,七六四 | 四,三六四 | — | — | — | — | 四,三九一 |
| 精紙製造 | 日給者本 | 二四,八九三 | 三三,一三四 | 三九,七〇七 | 三〇,四五五 | 三二,七四三 | 三三,四八 | 三三,五六〇 |
| 卷上 | 日給者本 | 二六,一〇〇 | 一四〇,七九二 | — | — | — | — | — |
| 仕 | 上功程者本 | 三,一四四〇 | 三,一〇六八 | 三,一六二一 | 三,一四一〇 | 三,一六〇〇 | 三,一七四五 | 四,六六〇 |
| 填 | 充功程者本 | 一五,五二〇 | 一六,四八 | — | — | — | — | — |
| 截 | 刻日給者貫 | 三三・三 | 三六・六 | 三六・六 | 四三・七 | 四五・八 | 四五・九 | 三九七・三 <small>座</small> |

| 荒刻 | 葉 | | 細刻 | | 除 | |
|----|----|----|-------|-------|-------|-------|
| | 自封 | 作分 | 葉 | 積 | 骨 | 日給者 |
| 至 | 封 | 紙 | 日給者 | 日給者 | 日給者 | 日給者 |
| 貼 | 分 | 貼 | 草 | 草 | 草 | 草 |
| | | | 個 | | | |
| | | | 八六 | 一四〇 | 一四〇 | 一四〇 |
| | | | 二四・二 | 一〇〇・七 | 一六・〇 | 一五・一 |
| | | | 四七・七 | 五・〇 | 五七・一 | 六・八 |
| | | | 三・一 | 三・一 | 三・一 | 三・〇 |
| | | | 三・一 | 三・一 | 三・一 | 三・〇 |
| | | | 三・一 | 三・一 | 三・一 | 三・〇 |
| | | | 八七・三 | 八七・三 | 八七・三 | 八七・三 |
| | | | 五七・一 | 五七・一 | 五七・一 | 五七・一 |
| | | | 六三・八 | 六三・八 | 六三・八 | 六三・八 |
| | | | 一〇三・二 | 一〇三・二 | 一〇三・二 | 一〇三・二 |
| | | | 一〇三・二 | 一〇三・二 | 一〇三・二 | 一〇三・二 |
| | | | 一七・七六 | 一七・七六 | 一七・七六 | 一七・七六 |

共済組合 専賣局現業員共済組合は大正十一年三月の組織に依り煙草製造に従事する工師、雇員、職工傭人等を組合員とし政府は組合員の給料總額の千分の二十を補給し組合員より毎月日給又は工賃の一日分を掛金せしめ各事由に應じ殉職金、傷痍金、療養金、産婦金、疾病金、特症金、死亡金、脱退金、及勤績金を給付する相互救済を目的とする特別保護團體なりしが昭和六年七月煙草販賣直營の結果新に政府の傭人となりたる煙草配給員をも之に加入せしむることとなりたるを以て昭和六年十一月一日組合規則を改正し同時に水、火災等の罹災ありたる場合災害金を給付することゝしたり而して昭和九年度末現在組合員四千壹百六十五人にして資金總額四十五萬八千餘圓を有し基礎益々鞏固となれり。

製造煙草輸移入 國產獎勵の見地より外國品に代ふるべき鮮内製品を推薦しつつあるも、原料其の他の關係上各年度販賣用として紙卷、葉卷、刻等を若干輸移入せり、其の價額左の如し。

| 年 度 | 輸 入 | 移 入 | 計 |
|---------|--------------------|--------------------|---------------------|
| 昭和九年 度 | 二、二七三 ^四 | 二五、〇九 ^四 | 四六、三四三 ^四 |
| 昭和八年 度 | 三、四〇七 | 二六、二七三 | 四七、六七九 |
| 昭和七年 度 | 一〇、〇四五 | 二八、〇五七 | 三八、一〇二 |
| 昭和六年 度 | 九、八三七 | 三七、一三三 | 四六、九七〇 |
| 昭和五年 度 | 一五、四三三 | 四一、五五四 | 五六、九六七 |
| 昭和四年 度 | 二八、八〇八 | 四六、〇三三 | 七四、八三〇 |
| 昭和三年 度 | 二六、四五三 | 六〇、二七三 | 八六、七二五 |
| 昭和二年 度 | 二六、六三五 | 四九、三五五 | 八五、九九〇 |
| 昭和元年 度 | 三三、四七一 | 五四、六六六 | 八八、一五七 |
| 大正十四年 度 | 三、六六一 | 四三、四三四 | 六六、一五五 |
| 大正十三年 度 | 一九、〇七九 | 五〇、二九〇 | 六九、三六九 |
| 大正十二年 度 | 五、一四〇 | 二九、九三二 | 八一、〇七二 |
| 大正十一年 度 | 六、三三〇 | 五、八五〇 | 三三、一七〇 |
| 大正十年 度 | 二七、八九 | 三、三七 | 四四、四二五 |

製造煙草販賣

製品の普及と奥地の開拓上屢々販賣官署の配置變更を見たるが昭和七年度末現在に於ては

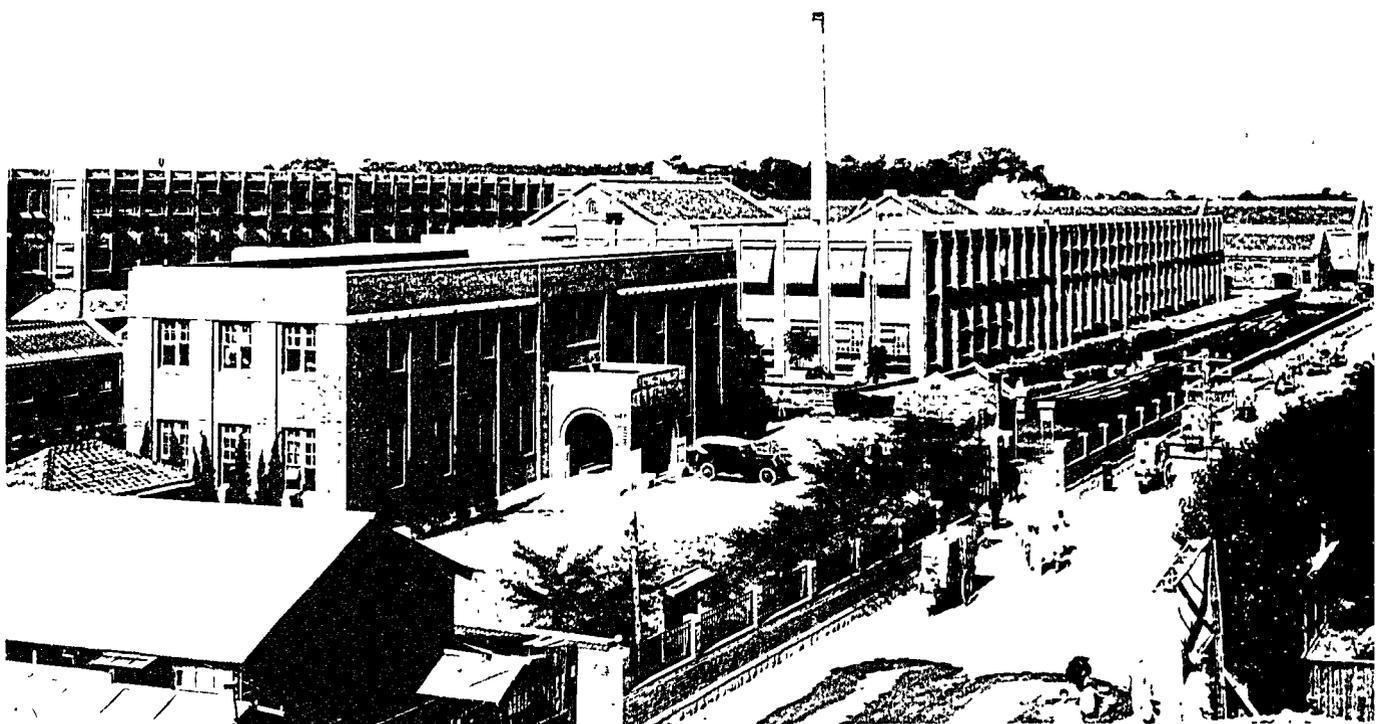
支局四、出張所二十三とす煙草販賣に付ては從來煙草元賣捌人をして製品配給の任に當らしめつゝありたるが昭和六年七月一日以降政府の直營に變更し從來の煙草元賣捌會社營業場所在地三百三十五箇所に販賣所を設置し同所より煙草小賣人に製品の配給を爲さしむることゝなれり爾來販賣所區域に變更あり其の結果昭和八年度末現在販賣所數三百二十七箇所となれり。

又煙草小賣人は販賣機關の第一線に立つものにして、之が配置と素質の如何は、事業進展上最重要なることに屬す、然るに民營當時に於ける製品の供給は、市街地、集團地に限定せられ、從て小賣人亦叙上の地に密集せるに反し、奥地には殆ど存在せざりし状態にして、其の分布甚しく適正を缺き製品の配給圓滑ならざりしを以て、專賣實施後二回に亙り之が基本的調査を斷行し、配置の適正を圖りたるも未だ以て充分ならず遺憾の點あるに鑑み、昭和四年四月更に營業狀態並配置調査を企畫し、奥地全般に亙り調査し、茲に小賣人配置の適正、素質改善の基礎を確立するを得たり、而して本年度末に於ける小賣人營業所數六萬五千五百六十八箇所、人口に對する比三百十七、町洞里數に對する比二、三箇所の分布状態なりとす。

而して各種製品の小賣定價次の如し。

| | | | |
|------|---|------|-------|
| 敷 | 島 | 二十本入 | 金十五錢 |
| 口付 | 朝 | 同 | 金十二錢 |
| コンゴウ | | 十本入 | 金二十五錢 |

數實に八億本に達し極端なる廉賣を行ふ者輩出せる等相俟て、官製品の賣行に影響せる所不尠遂に所期の成果を見ること能はざりしが、翌十一年度に於ては初年度の成績に鑑み極力製品の普及を圖りたるも、財界不況の影響は嗜好の轉下となり下級品に推移するの情勢を呈し、殊に下半年以降に於ては時局救濟物價調節の爲一二製品の値下を敢行せざるべからざるに至れり、剩へ消費節約の風潮は隨所に禁酒斷煙の誓契行はるゝ等延て製品賣行の不振を來したるも、大正十二年度に於ては比年財界不況の大勢に鑑み、兩切下級品の増製及鮮人向下級荒刻煙草の發賣を計畫し、販賣官署の増設と相俟て、専ら其地に製品の普及を圖ると共に專賣取締を勵行し、極力賣上の増進に努めたる結果、偶々關東地方大震災の影響を被りしに拘らず、前年度に比し百九十三萬圓の賣行増加を示すに至れり、大正十三年度に於ては打續く財界の不振は一層深刻の度を加へ來り殊に前年突發せる大震災の餘殃は、政府の財政緊縮となり事業の繰延又は中止等相亞いで行はれ、民間事業資金は容易に散布せられず金融益々逼迫を呈するに至りし際、偶々南鮮及中部地方稀有の大旱害に遭遇し、農民の困備其の極に達するあり、一般物資の購買力は噸に減退を呈し、製造煙草の需要は口付より兩切に兩切より荒刻に上級品より下級品に質より量に逆勢を呈するに至り、大勢の趨く所遂に豫期の成績を收め得ざりしと雖前年度に比し二百三十五萬圓を増加せり、大正十四年度の初頭に於ては、前年大旱害の餘殃にて其の賣行は前年度の同期に比し常に減退の傾向ありたるも、七月以降自家用葉煙草の生産減に依る全葉喫用品品薄となりし爲漸次頽勢を挽回し來り、加ふるに全鮮一齊に取締を勵行せる結果漸次賣行増進し、賣上



大 邱 專 賣 支 局



卷煙草包裝ノ狀況

高は二千三百六十三萬七千八百八十九圓に上り前年度に比し二百九萬三千二百五十八圓を増加せり、而して大正十五年度に入りても前年度に於ける專賣取締は愈々其の效果顯はるゝと共に製品の配給施設亦之に順應し益々整備するあり、爲に年度初頭以來累月著しき進展を遂げ結局年度内に於ける其の賣行高は二千七百九十一萬四百四十二圓に達し、前年度に比し四百二十七萬二千五百五十三圓（一割八分）を増加せり。

斯の傾向は昭和二年度に入りても大勢に變化なかりしが、大正十四年度以降製品配給施設と相俟て專賣取締は一段の努力を加へたる結果奥地開拓の餘地大いに縮少せられ、前年度に於けるが如き増進を見る能はず結局賣渡總額三千二十七萬四千八百九十四圓にして、前年度に比し二百三十六萬四千四百五十二圓（八分四厘）の増加となれり、昭和三年度に於ては財界の狀勢依然恢復の曙光を認むるに至らず、加ふるに全鮮に互り近年稀有の旱害に襲はるゝ等爲に一般市況彌が上に沈衰し事業界に於ては只僅に産米増殖計畫に伴ふ水利、治水事業其の他鐵道工事、水電事業等あるのみに過ぎず、隨つて煙草の賣行も其の影響を蒙ること多く一般の狀勢は上級品より下級品に低下の趨勢に在り、結局總額三千二百三十一萬八千八百三十七圓にして前年度に比し二百四萬三千九百四十三圓（六分七厘）の増加を示すに止まれり、昭和四年度に入りても素より大勢に變化あるにあらざるも中部以南の二箇年に互る旱害は奥地農村をして極度に疲弊せしむるに至り、其の購買力の減退は最近緊縮の高調と相俟つて一層不況の狀態に陥り、其の賣渡總額三千三百九十萬九千二百八十五圓にして前年度に比し百五十九萬四百四十八圓（四分九厘）の増加に過ぎざりき、昭和五年度に於ては

金解禁の影響に加へ所謂世界的不況の襲來するあり爲めに諸物價の激落と共に一段と不況化し殊に朝鮮に在りては漁獲物の暴落は沿革漁場の衰退を誘致し又生絲市價の慘落に連れ繭價低落し稀有の豊作は延いて穀價の暴落を招來したる等爲めに地方農村の疲弊一層深刻化するに至れり隨つて煙草の賣行も自然其の支配を脱する能はず一方前年度に於ける自家用煙草耕作の全廢民間荒刻煙草の製造廢止等相當賣行に好影響を齎すべき材料ありたるに拘はらず其賣渡高は三千百八十一萬六千百十圓にして前年度に比し二百九萬三千百七十五圓を減ずるの悲境に陥りたり昭和六年度に入りては財界の不況益々深刻化し年度中途從來の元賣捌人制度を廢し政府の直營に變更したる結果七月一日以降の賣渡高に付ては其單價に異動ありたるに拘はらず總額三百二十四萬九千四百四圓に過ぎず前年度に比し五十六萬六千七百六圓の減少となれり昭和七年度に入りては前年度末に於ける一時的好況の反動を受け更に一層の不況を招來したるも下半年に入りて以來所謂政府の通貨膨脹政策を見越し諸物價漸騰の傾向を呈したる一面時局匡救施設の普及徹底其の他産金事業の勃興等に依り地方農村の金融大に緩和せらるゝに至りたると共に煙草の賣行も之に隨伴して好化せり其總額三千二百十六萬七千七百三十九圓にして之が前年度に對比するに九十一萬八千三百三十五圓の増加となれり、斯くて下半年期以來の好況は昭和八年度に入りても變化なく寧ろ繭價の高騰、農作の豊饒穀價の騰貴等に依り益々好調を持續し結局年度内に於ける賣行高は三千五百三十一萬三千百八十六圓となり前年度に比し三百十四萬五千四百四十七圓（割合九分八厘）の増となれり、昭和九年度に入りても同様軍需景氣の影響と金高に因る産金

事業の隆盛沿岸地方の豊漁豊作物の豊作穀價の高騰及時局匡救事業の繼續等に因り農山漁村は素より一般經濟界亦益々好調を呈し爲に煙草の賣行も專賣創業以來最高の成績を收むることを得たり、本年度に於ける賣渡高三千九百二萬五千六百七十六圓にして前年度に比し、三百七十一萬二千四百九十圓割合一割五厘の増となれり、各年度に於ける賣渡高を示せば左の如し。

| 年 度 | 區 分 | 口 付 | | 雨 切 | | 細 刻 | 荒 刻 | 輸 移 入 品 | 計 |
|-------|-----|---------|-----------|------------|------------|------------|---------|------------|-----------|
| | | 數 量 | 價 額 | 數 量 | 價 額 | | | | |
| 昭和九年度 | 數 量 | 一九九、三六六 | 四、四〇九、四三三 | 二九、四二二 | 一六、七七四、二四六 | — | 八四〇、三〇四 | — | 元、〇五五、七六六 |
| | | 價 額 | 一、三三三、七七四 | 三〇、九三〇、三三六 | 二二、一二三 | 一六、七六六、四四三 | — | — | — |
| 昭和八年度 | 數 量 | 三二一、三三四 | 三、七七五、六三三 | 三三、〇五八 | 一五、八六六、二三〇 | — | — | — | — |
| | | 價 額 | 一、三四一、四六〇 | 一七、六八三、二七五 | 一六、二九九 | 一六、一七四、二〇四 | 六六、二四六 | 三三、三三三、一八六 | — |
| 昭和七年度 | 數 量 | 二七三、四六六 | 三、二七〇、〇〇六 | 四三、五五六 | 一四、八五九、二五〇 | — | — | — | — |
| | | 價 額 | 一、五三三、八四〇 | 一五、三三四、六九六 | 一四三、八七八 | 一五、一八四、〇三三 | 九二、二九〇 | 三二、一七、七三九 | — |
| 昭和六年度 | 數 量 | 三三三、九三六 | 三、一六六、八〇四 | 三六、七六四 | 一四、四六八、二五三 | — | — | — | — |
| | | 價 額 | 一、六四、二七三 | 一四、四九三、二〇〇 | 一六〇、五四四 | 一四、五三三、六四六 | 九九、七五二 | 三、三四九、四四四 | — |
| 昭和五年度 | 數 量 | 五〇七、二七六 | 三、三六〇、〇五九 | 四〇、五七五 | 一四、三七八、一六八 | — | — | — | — |
| | | 價 額 | 二、六九五、三九六 | 一五、〇八二、〇〇六 | 一八六、一〇一 | 一三、七二九、五五四 | 一三三、〇〇〇 | 三、八二六、二二〇 | — |

| 昭和四年度 | 昭和三年度 | 昭和二年度 | 昭和元年 大正十五年 | 大正十四年度 | 大正十三年度 | 大正十二年度 | 大正十一年度 |
|-----------|------------|---------|---------------|---------|------------|--------|--------|
| 價額 | 數量 | 價額 | 數量 | 價額 | 數量 | 價額 | 數量 |
| 七三、四〇九 | 三、七九〇、〇五九 | 五四、二五九 | 一三、八三八、三八八 | — | — | — | — |
| 三、七三七、八三五 | 一七、六六六、七四八 | 二七、五八二 | 一三、一八五、〇六一 | 一六三、〇四九 | 三三、九〇九、二八五 | — | — |
| 七四五、六三一 | 三、七三〇、三六〇 | 五九、四五三 | 二二、八五六、二八〇 | — | — | — | — |
| 三、九〇一、九七六 | 一六、七五五、五九四 | 三四〇、四三三 | 一一、二三八、九四〇 | 一九一、九〇四 | 三三、三三八、八三七 | — | — |
| 七八三、三七八 | 三、五五一、七〇三 | 六七、四八九 | 一〇、九六二、五六三 | — | — | — | — |
| 四、〇五四、〇〇四 | 一五、三七四、〇三四 | 二七四、四二一 | 一〇、三九四、六〇七 | 一七七、七九八 | 三〇、二七四、八九四 | — | — |
| 七九四、一九三 | 三、四九三、一九三 | 六九、五五九 | 九、三七六、七七〇 | — | — | — | — |
| 四、〇九〇、八三七 | 一四、三二一、五三七 | 二八四、〇三四 | 八、九六六、一五〇 | 三三七、八九四 | 二七、九一〇、四三 | — | — |
| 八八二、五三五 | 三、三三八、一六九 | 七九、八八三 | 五、五三四、六九六 | — | — | — | — |
| 四、四六四、二四 | 一三、二八、五四一 | 三四、八六五 | 五、五二一、一七三 | 三〇七、〇九七 | 二二、六三七、八八九 | — | — |
| 九五六、九八五 | 三、一九七、〇〇四 | 八〇、七九四 | 三、五四〇、八七四 | — | — | — | — |
| 四、七九八、八二二 | 一三、四〇八、三三六 | 三三八、六六六 | 三、八二一、六四三 | 一八七、二七四 | 二二、五四四、六三一 | — | — |
| 一、〇六九、六七七 | 二、八二二、一六三 | 一〇六、〇〇九 | 二、二八九、五四八 | — | — | — | — |
| 五、三五一、四四五 | 一〇、八五九、七二四 | 四三三、二八二 | 二、四九七、八八四 | 一五三、四三九 | 一九、一九五、三五四 | — | — |
| 一、四七六、九三〇 | 二、一六九、九四二 | 八六、八〇一 | 三二九、七三五 | — | — | — | — |
| 七、五〇〇、七二二 | 九、三三三、五四三 | 三五九、三〇一 | 二九三、八三七 | 一九八、〇一九 | 一七、二六五、三二二 | — | — |

| 大正十年度 | 數量 | | 價額 |
|-------|-----------|-----------|-----------|
| | 數量 | 價額 | |
| | 九七九、四九九 | 一、九〇三、七三三 | 七、一九〇 |
| | 四、六七三、六九九 | 六、八〇七、三六三 | 二六、五九九 |
| | | | 三三、三六〇 |
| | | | 二、八三三、九三二 |

而して以上の賣行状況を品種別に觀れば口付煙草は大正十一年度を全盛時代にし、爾後兩切への嗜好の變遷と不況の影響に累せられ逐年減退し就中松風の減退最も著し。

兩切煙草は創業以來昭和四年度迄は口付細刻の嗜好變遷等により逐年賣行旺盛に向ひ昭和四年度の如き創業第二年の大正十一年度に對比し實に五割三分七厘餘の増加を示すに至れり然るに其後財界の不況に累せられ五年度中途より漸減の步調を辿るに至れり。

細刻煙草は主として一部内地人の需要者に限られ文化の向上に従ひ紙巻に嗜好變遷の趨勢にあり、口付と同じく逐年減退しつゝあり。

荒刻は自家用耕作者の減少、專賣取締の徹底等に依り逐年著しき増加を示したるが、自家用耕作、民製荒刻製造の如き例外的制度の廢止に伴ひ今後一層増加すべしと認めらる。

輸移入製造煙草は需要階級自然に限定せらるゝを以て一進一退あるも各年度大差なし。

口 付 賣 渡 高

| 年 度 | 敷 島 | | 朝 日 | | 松 風 | |
|--------|--------------------------|-------------------------|--------------------------|-------------------------|--------------------------|-------------------------|
| | 數 量 | 金 額 | 數 量 | 金 額 | 數 量 | 金 額 |
| 昭和九年度 | 四八、八〇三 <small>千本</small> | 三九、八〇三 <small>円</small> | 一三、九六四 <small>千本</small> | 七四、〇三三 <small>円</small> | 一四、八五九 <small>千本</small> | 六〇、一七四 <small>円</small> |
| 昭和八年度 | 五四、三五〇 | 三六、八六八 | 一四、七、三四三 | 七九、五四九 | 一九、五三六 | 七九、〇七七 |
| 昭和七年度 | 六九、四一〇 | 四八、五二七 | 一七、五三七 | 九八、一四八 | 二六、三五九 | 一〇六、七四九 |
| 昭和六年度 | 九三、九一〇 | 六六、四九九 | 三三、四三三 | 一一、九〇、六六四 | 三六、四九一 | 一四六、三〇五 |
| 昭和五年度 | 一四一、〇三三 | 九五、〇三三 | 二九、二五九 | 一、五三、四五〇 | 六六、九七五 | 二五七、七二〇 |
| 昭和四年度 | 一八八、八四七 | 一一、六六、五〇三 | 四一〇、七九三 | 二、一〇、二二三 | 一一九、七五七 | 四五九、九四六 |
| 昭和三年度 | 一七六、三七五 | 一一、四三、六三〇 | 四四、九七七 | 二、二二、八九六 | 一三三、二六七 | 五〇八、〇三四 |
| 昭和二年度 | 一九〇、四九三 | 一一、三三、六五六 | 四五、〇四八 | 二、三三、一九三 | 一五六、八二七 | 六〇三、九九九 |
| 昭和元年度 | 一八九、九二五 | 一一、二九、八六八 | 四三〇、七八〇 | 二、三〇、二一六 | 一七三、四七四 | 六六、五八三 |
| 大正十四年度 | 一九八、〇九五 | 一一、二六、〇六三 | 四五、六四六 | 二、三三、八五一 | 二二八、七七三 | 八七四、四一 |
| 大正十三年度 | 二〇九、五四五 | 一一、三三、六四三 | 四六、七二〇 | 二、三六、〇五八 | 二八二、三三〇 | 一一〇、七八、五七七 |
| 大正十二年度 | 一九八、三六二 | 一一、二六、四三六 | 五二、八七二 | 二、六五、七三四 | 三三六、四二三 | 一一、三六、六七七 |
| 大正十一年度 | 二一〇、一八五 | 一一、三四、四〇三 | 七三、八六九 | 三、七〇、三、六五五 | 五八、〇六六 | 二、二九、七四八 |
| 大正十年度 | 九〇、七八〇 | 五八、四九三 | 四五、三、四三 | 二、三三、四、七七六 | 三三、八、四七五 | 一、四三、一八九 |

備考 特製品及廢止したる製品は省略せり次表以下亦同じ

兩 切 賣 渡 高 (其の一)

| 年 度 | ジージョーシー | | コンゴロ | | カイダ | | ピジョン | | 銀 河 | |
|--------|---------|-------|-------|--------|--------|---------|----------|-----------|--------|---------|
| | 數量 | 金額 | 數量 | 金額 | 數量 | 金額 | 數量 | 金額 | 數量 | 金額 |
| 昭和九年度 | 壹千本 | 三、二八二 | 肆千本 | 九、六〇六 | 二、〇四六 | 一四九、二六八 | 三、七五七 | 二、八七五、五六一 | 三〇、〇六九 | 二七〇、六八九 |
| 昭和八年度 | 壹 | 二、三五九 | 四三 | 九、四六五 | 八、六七八 | 一七、一四二 | 二、五二、五五六 | 二、三六四、一一 | 四九、三五四 | 四四三、二八三 |
| 昭和七年度 | 五 | 二、〇三六 | 四九〇 | 一一、〇一九 | 九、一八三 | 一三三、九七四 | 三三、七九 | 二、〇〇四、三六〇 | 五、七六四 | 三五七、八七四 |
| 昭和六年度 | 六 | 二、三〇三 | 五四四 | 二、一六三 | 一、二七六 | 一四九、一九九 | 二四、一六八 | 三、一四七、二六 | — | — |
| 昭和五年度 | 一四 | 四、〇五三 | 一、〇七九 | 三三、一四〇 | 一八、四三七 | 二七、四一〇 | 四五〇、九三三 | 三、八三三、五一九 | — | — |
| 昭和四年度 | 一四 | 四、八〇一 | 一、一五七 | 二四、九四六 | 三〇、七九三 | 三九六、一五七 | 九一九、四二八 | 七、七四、〇五九 | — | — |
| 昭和三年度 | 八 | 二、七二三 | — | — | 三〇、七〇六 | 三九五、五五六 | 八四、三三六 | 六、九〇三、六七六 | — | — |
| 昭和二年度 | 六 | 二、〇一〇 | — | — | 二四、二三八 | 三三、一四七 | 七二六、六四五 | 六、〇八五、七九八 | — | — |
| 昭和元年度 | 五 | 一、八八一 | — | — | 二〇、一七五 | 二六〇、四三四 | 五七七、四七〇 | 四、九〇一、九五六 | — | — |
| 大正十四年度 | 一〇三 | 三、三三九 | — | — | 六八、〇八三 | 二三三、〇八三 | 四六四、二六一 | 三、九三九、五三三 | — | — |
| 大正十三年度 | 一〇八 | 三、五三四 | — | — | 一五、六二三 | 二〇〇、五三〇 | 四〇五、四〇一 | 三、四四二、六三三 | — | — |

| 年 度 | 細 刻 賣 渡 高 | さ | つ | き | あ | や | め |
|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|---|---|---|
| 大正十四年度 | 六四、四八二 | 二、七五八、一五三 | 二、二〇八、三四一 | 六、一九五、四〇五 | — | — | — |
| 大正十三年度 | 六六、九七五 | 二、八四〇、四一〇 | 二、一〇八、九〇七 | 五、九二一、一五〇 | — | — | — |
| 大正十二年度 | 七三、七三五 | 三、〇七〇、四二七 | 一、七四三、一三三 | 四、八八六、八九七 | — | — | — |
| 大正十一年度 | 九三、三三〇 | 三、九三〇、五九九 | 八七九、六二二 | 二、四七五、〇三三 | — | — | — |
| 大正十年度 | 三〇、〇〇〇 | 八五七、九六六 | 一、四四四、九七六 | 四、〇四七、七七五 | — | — | — |

| 年 度 | 數 量 | 金 額 | 數 量 | 金 額 |
|-------|--------|---------|--------|---------|
| 昭和九年度 | 八、五五五 | 四〇、八七一 | 三〇、八九六 | 八〇、二四三 |
| 昭和八年度 | 九、三三五 | 四四、七二四 | 二二、七四三 | 八三、四八五 |
| 昭和七年度 | 一一、六四〇 | 五五、八八〇 | 三三、九一六 | 八七、九九八 |
| 昭和六年度 | 一四、一九八 | 六七、三四〇 | 二四、五二九 | 九三、一八四 |
| 昭和五年度 | 一七、八〇九 | 八一、一九六 | 二八、七六六 | 一〇四、九〇五 |
| 昭和四年度 | 二一、六九八 | 九八、八九三 | 三三、五六一 | 一一八、六九〇 |
| 昭和三年度 | 二六、一四五 | 一二九、二一八 | 三三、三〇八 | 一二一、三〇五 |

三七

| 年 | 不老煙 | 長壽煙 | 五福草 | 蘭煙 | 福煙 |
|---------|--------|---------|--------|---------|---------|
| 昭和二年 度 | 三,〇三八 | 二四,五二三 | 二六,四六一 | 二二,〇三六 | 二二,〇三六 |
| 昭和五年 度 | 三,六六八 | 一五,二七三 | 二五,九〇六 | 一三〇,六七四 | 一三〇,六七四 |
| 大正十四年 度 | 三六,七九八 | 一七,九三三 | 四二,〇八五 | 一四六,九四三 | 一四六,九四三 |
| 大正十三年 度 | 三九,〇五六 | 一七,三三一 | 四二,七三三 | 一五一,二六九 | 一五一,二六九 |
| 大正十二年 度 | 五三,九七〇 | 二四,七六六 | 五三,〇三〇 | 一八八,四五四 | 一八八,四五四 |
| 大正十一年 度 | 四八,六八〇 | 三三,三三三 | 三七,三九一 | 二五,八六六 | 二五,八六六 |
| 大正十年 度 | 三三,五九〇 | 一〇三,八四五 | 三三,七〇五 | 三二,〇六一 | 三二,〇六一 |

荒 刻 賣 渡 高

| 年 | 不老煙 | | 長壽煙 | | 五福草 | | 蘭煙 | | 福煙 | |
|---------|--------|---------|-----------|-----------|---------|---------|------------|------------|---------|---------|
| | 數量 | 金額 | 數量 | 金額 | 數量 | 金額 | 數量 | 金額 | 數量 | 金額 |
| 昭和九年 度 | 七五,七三三 | 三,七〇三 | 一,三〇,三三三 | 一,八〇八,六九九 | 九六,三〇四 | 一四七,三六六 | 一四,五三三,九七四 | 一四,五三三,九七四 | 四七,七七三 | 三,四九九 |
| 昭和八年度 度 | 六,七〇四 | 二〇六,二〇〇 | 一,一〇五,〇〇九 | 一,七六六,〇一一 | 一六六,六七二 | 二六六,六六六 | 一四,四〇七,〇九一 | 一三,八三四,一八〇 | 二八,六五四 | 九一,一三七 |
| 昭和七年度 度 | 七,二六六 | 二二〇,六七八 | 一,一六三,三四五 | 一,八七四,一〇三 | 八,五三二 | 一三〇,四四四 | 一三,三四三,三六八 | 一三,八三三,〇〇一 | 二〇二,八九〇 | 二五,八一九 |
| 昭和六年度 度 | 八三,〇〇三 | 二四六,四九七 | 一,二六九,三七六 | 一,八五三,一九六 | — | — | 一三,九六七,七三三 | 一三,三六一,〇三二 | 三三八,一九一 | 一七三,九三〇 |
| 昭和五年度 度 | 八二,三三九 | 二三三,四九一 | 一,二九六,三三一 | 一,七八一,六六〇 | — | — | 一三,九六三,四八八 | 一三,六三一,四九九 | 二八,二九〇 | 八三,九六六 |

| | | | | | | | | | | |
|--------|------|--------|-----------|-----------|---|---|------------|------------|---|---|
| 昭和四年度 | 七、七三 | 一九、三九六 | 二、三、五六一 | 六、六、一九六 | — | — | 一、七、七〇、一四〇 | 一〇、四九、九、七 | — | — |
| 昭和三年度 | — | — | 一、〇、七、一七八 | 一、五、三、二五三 | — | — | 一〇、八三、一〇三 | 九、七六、六、八 | — | — |
| 昭和二年度 | — | — | 九、六、四四一 | 四、五三、五九九 | — | — | 九、五六、一三九 | 八、九四、三、〇一八 | — | — |
| 昭和元年度 | — | — | 九、四三、六九九 | 一、四、五、七四四 | — | — | 八、四四、〇七三 | 七、五〇、〇四六 | — | — |
| 大正十五年度 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 大正十四年度 | — | — | 八、五、四四一 | 一、三、〇、九二〇 | — | — | 四、六八、二五三 | 四、三〇、二六三 | — | — |
| 大正十三年度 | — | — | 一、〇、三、六〇六 | 一、五、七、五九九 | — | — | 二、四九、七、二六 | 二、二四、〇、五三 | — | — |
| 大正十二年度 | — | — | 七、九、八三六 | 一、二、四、二五二 | — | — | 一、五三、〇、七六 | 一、三、五、三、六一 | — | — |

葉煙草販賣

專賣令の例外として當分の間認めたる 民間荒刻煙草製造用原料及全葉喫用の葉煙草を賣渡したるが政府に於て全葉喫用の代用として荒刻煙草を製造販賣したるに、著しく一般の嗜好に投じ之が原料に不足を生ずる狀況を呈し、一面に於ては奥地の開拓に依り製品の普及するに伴ひ、大正十二年度以降全葉喫用として賣渡の必要なきに至り、又民間荒刻煙草の製造は昭和四年限り廢止せられたり、同四年度迄の賣渡數量及價額は左の如し。

| 區分 | 昭和四年度 | 昭和三年度 | 昭和二年度 | 昭和元年度 | 大正十四年度 | 大正十三年度 | 大正十二年度 | 大正十一年度 | 大正十年度 |
|----|--------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 數量 | 一七、九〇三 | 三〇、五一九 | 三六、七六八 | 四六、二四〇 | 五五、八二五 | 六九、八六三 | 五三、三三三 | 二七三、八六六 | 四四、三三三 |
| 價額 | 六〇、〇〇六 | 九六、七〇〇 | 一三二、三九〇 | 一五九、二七六 | 一八四、〇四六 | 二二五、六三三 | 一三二、七四六 | 五三〇、〇三二 | 七五三、九七七 |

煙草專賣取締 取締の適否は事業の成績に及ぼす影響甚大なるが故に其の周到を要すること勿論なるも、從來人員と經費とに制せられ之を徹底せしむること至難なりしが、大正十三年二月勅令を以て府尹、郡守、島司、府郡島稅務官吏（昭和九年四月より稅務署長、收稅官吏に改正せらる）の煙草專賣令犯則處分に關する職權を擴張せられたると、新に道警察官吏、稅關官吏も煙草專賣に關する犯則處分の事務を行ふこととなりしを以て、爾來是等關係官署と協力して其の取締を勵行しつゝあり 自昭和三年至昭和八年度に於ける 犯則發見人員及主なる犯目別人員左の如し。

| 年 度 | 犯 則 發 見 人 員 | 密 輸 入 | 密 拵 作 | 納付業煙草隱不正業煙草所無許可自家用拵 撤消費讓渡持讓渡、渡受作位置面積變更 | 犯 目 別 人 員 | 其 の 他 |
|-------|-------------|--------|-------|---|-----------|-------|
| 昭和九年度 | 三三、七三 | 一七、〇九〇 | 三、六六八 | 一、七三〇 | 一一、二一〇 | 一八五 |
| 昭和八年度 | 四三、六〇 | 一九、七六四 | 六、二二六 | 二、二三四 | 一五、二四六 | 二八〇 |
| 昭和七年度 | 五三、八九三 | 一八、六四〇 | 九、三七六 | 三、三三二 | 二二、〇四一 | 五三三 |
| 昭和六年度 | 四九、二五五 | 二五、七六六 | 八、〇五三 | 四、〇五三 | 三〇、六四一 | 七四三 |
| 昭和五年度 | 五四、〇四三 | 二二、四五〇 | 八、二九八 | 五、〇五六 | 二六、七一一 | 一、五四四 |
| 昭和四年度 | 六〇、〇八三 | 四、〇〇三 | 七、七七三 | 四、五八九 | 三〇、〇四七 | 三、八〇〇 |
| 昭和三年度 | 五五、四四五 | 三、九一七 | 九、八五五 | 五、七一一 | 一九、三六八 | 六、一一一 |

人 蔘

沿革 紅蔘は古來高麗蔘と稱し、支那に於て其の聲價極めて高く毎年の製品は専ら同國に輸出せられ、舊韓國政府の所管たりしが、爾後幾多の變遷あり本業は殆ど頽廢の極に達し、加ふるに蔘圃の病蟲害全般に瀰漫し、耕作者相踵ぎて其の業を廢するに至れり。仍て舊韓國政府は明治四十一年該事業を宮内府より度支部に移管し。同年七月紅蔘專賣法を發布し其の制度を確立せり。日韓併合後は政府に於て事業を繼承し、特別耕作區域の指定、種苗の改良、病蟲害の豫防驅除、耕地の選定等蔘政改善の施設に努力し、一面蔘業組合を組織せしめて、斯業の發達を助長せしめたり、次いで大正九年十月舊法を廢し紅蔘專賣令を公布し一層斯業の發展を圖りたるを以て、爾來長足の進歩を遂げ蔘業の基礎漸く確立して、今日の盛況を呈するに至れり。

耕作及收納 人蔘は各道に於て之を産出するも、就中京畿道開城附近に産出するもの、品質優良且つ其の形態需要者の嗜好に適應せるを以て、由來同地方附近に之が耕作を爲すもの最も多し。依て政府專賣の紅蔘原料を收納すべき、人蔘耕作區域を專賣法實施當時に在りては、京畿道開城、長湍、豊徳の三郡黃海道金川兎山、平山、瑞興、鳳山の五郡を指定せしが、事業の發展と共に區域擴張の必要を認め、平安南道中和郡及

黃海道黃州、遂安の三郡を追加し、其の後行政區域變更の結果豐德及兎山を除きたる九郡を指定せるが、昭和二年六月に至り中和、遂安、黃州郡を除き更に昭和五年行政區域變更に依り其の指定區域を左記一府六郡に改めたり。

京畿道 開城府、開豐郡、長湍郡

黃海道 金川郡、平山郡、瑞興郡、鳳山郡

元來人蔘は五加科に屬する宿根草にして、播種の翌年三月中旬より四月上旬に亘り之を本圃に移植す。通例苗圃一年本圃五年計六年を経て、始めて收穫(都合により五年を経て收穫する場合あり)するものにして此の生人蔘を水蔘と稱す。而して人蔘は一般農作物と異り、性極めて脆弱なるのみならず常に病蟲害に冒され易きを以て、從來多くは之を副業として經營するに過ぎざりしが、專賣法實施以來政府の保護獎勵の周到なるに鑑み、之を專業と爲すもの續出し従て年々耕作坪數も増加を來し、特に大正五年以降著しきものあり、紅蔘製造亦従て増加するに至れり。然るに支那に於ける紅蔘需要狀況調査の結果、之が調節の必要を認め將來市況の變動を來さざる限り、其の製品を適當の數量に止むると共に、一層選蔘に留意し銳意品質の向上を図る方針の下に、大正十年度以降其の移植坪數を制限することとせり、以上の狀況左の如し。

水 蓼



人 蓼 耕 作 ノ 状 况



專賣局開城出張所紅蔘日光乾燥狀況

| 年 度 | 耕作人員 | 耕作總面積 千坪 | 採 掘 | | 水 蓼 收納高 | 一坪平均 收 穫 高 | 水 蓼 收納高 | 一坪平均 收納高 | 水 蓼 賠償金高 | 一坪平均 賠償金 |
|--------|------|-------------|---------|----------|------------|---------------|------------|-------------|-------------|-------------|
| | | | 面積 坪 | 收穫高 斤 | | | | | | |
| 昭和九年度 | 二八九 | 一、八四四 | 三六八 | 七二七、四六六 | 二〇四 | 二四、五七七 | 〇・四〇 | 一、〇八七、九四八 | 七・六三二 | |
| 昭和八年度 | 二九三 | 一、四九三 | 三五一 | 七三〇、七六九 | 二〇八 | 一四三、六六六 | 〇・四一 | 一、二一八、七三四 | 七・八四二 | |
| 昭和七年度 | 二九九 | 一、九四九 | 三六〇 | 七九四、〇七七 | 二〇八 | 一五、一七三 | 〇・四三 | 一、三六〇、五九九 | 八・三三七 | |
| 昭和六年度 | 二九四 | 一、九三九 | 三五〇 | 七二七、六七八 | 三〇八 | 一六、九五三 | 〇・四六 | 一、三三九、三三七 | 八・二四六 | |
| 昭和五年度 | 二九一 | 一、八八一 | 三三七 | 五九四、八九一 | 一七四 | 一七〇、七〇九 | 〇・五一 | 一、三九〇、四七八 | 八・二四五 | |
| 昭和四年度 | 二九八 | 一、八三三 | 三三四 | 五四九、七三九 | 一六四 | 一五、五五八 | 〇・五〇 | 一、三三五、八二三 | 七・九四九 | |
| 昭和三年度 | 二九六 | 一、七九〇 | 三三七 | 五七六、五三三 | 一七六 | 一七、三四〇 | 〇・六〇 | 一、六四八、〇二三 | 八・三五一 | |
| 昭和二年度 | 三〇六 | 一、七六七 | 三三六 | 五〇九、三九九 | 一五九 | 一四、三〇一 | 〇・四七 | 一、三二九、八〇八 | 七・九〇九 | |
| 昭和元年度 | 二六九 | 一、六三三 | 二〇一 | 三三〇、〇一七 | 一六〇 | 一〇、八二三 | 〇・四四 | 八七六、八〇八 | 七・八九九 | |
| 大正十四年度 | 二六八 | 一、五三三 | 二六七 | 四四五、五二二 | 一五九 | 一一、六三四 | 〇・四三 | 九二七、九四〇 | 八・三三三 | |
| 大正十三年度 | 二四九 | 一、五九六 | 三六〇 | 五三三、五六九 | 一四六 | 一四、九八三 | 〇・三七 | 一、一五五、八二三 | 八・二二七 | |
| 大正十二年度 | 二三八 | 一、六四四 | 四三〇 | 七〇五、一三四 | 一六六 | 一六、〇〇三 | 〇・四〇 | 一、四三〇、六八一 | 八・六四四 | |
| 大正十一年度 | 二九二 | 一、三三八 | 四七五 | 八四三、四六六 | 二七七 | 一六、五五三 | 〇・四四 | 一、四四五、九三三 | 八・八六八 | |
| 大正十年度 | 二七三 | 一、六三二 | 三七一 | 七三三、〇二六 | 一九七 | 二二、〇三四 | 〇・三八 | 一、三三五、四〇〇 | 九・三六七 | |

紅蔘製造 人蔘は其の製法に依り紅蔘、白蔘の二種に區別す。紅蔘は水蔘(生人蔘)を蒸し之を火熱及日光に依り乾燥せしめ、白蔘は水蔘の表皮を削削し日光にて乾燥し製造するものにして、兩者共に太物にして且つ形態の整備せるものを尙び前者は價貴く後者は廉なり。政府の專賣に屬するものは紅蔘にして其の製造期は毎年九月中旬より開始し十一月中旬迄に終了するを通例とす。紅蔘一斤製造に要する原料水蔘は各年度を通じ三斤八分なり。各年度の製造高は左の如し。

| 年 度 | 天 蔘 | 地 蔘 | 雜 蔘 | 計 | 尾 蔘 |
|---------|---------|---------|--------|---------|--------|
| 昭和九年 度 | 一八、一七九斤 | 一七、八〇六斤 | 一、三〇〇斤 | 三七、二〇三斤 | 二、六二六斤 |
| 昭和八年 度 | 一七、八二四 | 一七、六六七 | 八五五 | 三六、三六六 | 三、三三〇 |
| 昭和七年 度 | 三〇、九三九 | 三〇、八九三 | 一、五三三 | 四三、三六四 | 一五、五九五 |
| 昭和六年 度 | 二一、三六七 | 二一、二八七 | 一、一四五 | 四三、八一九 | 一五、四八三 |
| 昭和五年 度 | 九、六二九 | 三五、四九三 | 一、一四九 | 四六、二五九 | 一五、八三六 |
| 昭和四年 度 | 一七、五〇〇 | 二〇、五四三 | 一、一四五 | 三九、一八七 | 二四、九二二 |
| 昭和三年 度 | 三三、二七五 | 二六、八〇八 | 一、五三八 | 五〇、九一三 | 一九、五三九 |
| 昭和二年 度 | 二〇、一七〇 | 二〇、六九四 | 六七六 | 四一、五四〇 | 一四、〇一七 |
| 大正十五年 度 | 一三、五九九 | 一五、一七三 | 六三七 | 二九、八六六 | 一〇、〇八四 |

| | | | | | |
|--------|-------|-------|------|-------|-------|
| 大正十四年度 | 一五、六三 | 一五、四五 | 六〇 | 三、六九 | 九、六〇 |
| 大正十三年度 | 一八、九七 | 一八、八〇 | 七三 | 六、五八 | 一三、三四 |
| 大正十二年度 | 三三、一九 | 三三、〇〇 | 九三 | 四六、〇三 | 一五、七五 |
| 大正十一年度 | 一九、六六 | 一九、七三 | 一、二二 | 四〇、五一 | 一四、七三 |
| 大正十年度 | 一六、〇五 | 一八、〇七 | 二、二六 | 三六、二六 | 一四、九二 |

備考 天蔘、地蔘及雜蔘は紅蔘の品質區分名稱にして天蔘は甲、地蔘は乙、雜蔘は丙品に該當するものなり。

屋蔘は紅蔘製造中の折損したるもの及紅蔘調整の際不用の分を切りたるものなり。

紅蔘拂下 紅蔘は特殊の商品にして其の販賣數量は一年を通じ多きは四萬斤少なきは數千斤に過ぎず、

従つて之が爲販賣機關の特設を不利とし紅蔘專賣施行當初に於ては、需要地に於ける信用程度及資力を調査し指名競争入札に附したるも、斯くては徒に競争を劇甚ならしめ其の聲價を維持し難く、延ては將來堅實なる販路の發展を期し難きを以て、多年貿易に従事し支那の事情に通曉する者に一手拂下を特約し、之が販賣に當らしむるは紅蔘專賣遂行上最も有利なりと認め、大正三年度以降三井物産株式會社に特約拂下今日に及びり。而して其の販賣に付ては常に同社を督勵し販路の擴張に努めしむるも、賣行は年に依り消長甚しく毎年若干の滞貨を生ずるに至り、大正十一年四月末現在の如きは實に四萬斤の多數を示せり。然れども製品の改善と支那及南洋地方に於ける販路擴張と相俟つて、如上の滞貨も年々減少し今日に於ては殆ど一掃すること

とを得たりしが又復日貨排斥及日支事變の影響を受け昭和九年四月末現在政府及三井に於て十萬二千餘斤の多數滞貨を擁するに至りたり。各年度の拂下高左の如し。

| 年 度 | 数 量 | 價 額 | 一斤平均價格 |
|--------|--------------------|----------------------|--------------------|
| 昭和九年度 | 三七、三三 _斤 | 一、五三、五四 _円 | 四二・四七 _円 |
| 昭和八年度 | 三〇、六三 | 一、二七、七四 | 四二・二七 |
| 昭和七年度 | 五三、五六 | 二、〇四二、五三 | 三六・八五 |
| 昭和六年度 | 四八、〇七 | 一、九〇、四二 | 四〇・七六 |
| 昭和五年度 | 五五、三七 | 二、三六、六三 | 四三・八三 |
| 昭和四年度 | 五三、五二 | 二、四七、三六 | 四五・四一 |
| 昭和三年度 | 六二、八二 | 三、〇〇、五四 | 四九・二六 |
| 昭和二年度 | 五三、〇四 | 二、四〇五、六一 | 四五・三三 |
| 昭和十元 | 四三、五八 | 二、七三、九二 | 六〇・三〇 |
| 大正十四年度 | 四〇、〇三 | 二、六六、八五 | 六六・三九 |
| 大正十三年度 | 三五、二四 | 二、一三、二二 | 六〇・六〇 |
| 大正十二年度 | 四三、七四 | 二、一七四、九三 | 四九・七〇 |

| | | | |
|--------|-------|----------|-------|
| 大正十一年度 | 四、八四〇 | 三、二六、三〇〇 | 五、九六六 |
| 大正十年度 | 三、六三〇 | 二、〇三、四六一 | 五、九六二 |

以上拂下紅蔘の輸移出高は左の通にして、其の仕向地は支那大部分を占め香港海峽殖民地、臺灣等、之に次ぎ蘭領印度、佛領印度支那、緬甸、比律賓等に亦若干を示せり。

(其の 一)

| 區分 | 昭和九年 | 昭和八年 | 昭和七年 | 昭和六年 | 昭和五年 | 昭和四年 | 昭和三年 |
|-----|----------|--------|----------|---------|----------|---------|-----------|
| 數 量 | 五、五五斤 | 二六、五四斤 | 六、四二七斤 | 九、三四斤 | 九、七七斤 | 三、八八元 | 五、九五斤 |
| 價 額 | 三、〇四、七四円 | 七六、七二円 | 三、七、八四三円 | 四、四、七二円 | 三、八四、七三円 | 三、五、四三円 | 二、四、五、三九円 |

(其の 二)

| 區分 | 昭和二年 | 昭和元年 | 大正十四年 | 大正十三年 | 大正十二年 | 大正十一年 | 大正十年 |
|-----|----------|-----------|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 數 量 | 五、四六斤 | 四、六六斤 | 四、六六斤 | 四、七三斤 | 四、九二斤 | 四、三六斤 | 四、七九斤 |
| 價 額 | 二、八三、三九円 | 二、三、八、九三円 | 二、三、三、二七円 | 二、三、七、九、四九円 | 二、五、五、七、三三円 | 一、九、三、七、〇八円 | 二、三、一、七、八八円 |

紅蔘副製品 紅蔘は上記の如く専ら支那に輸出するものなるが、其の製造に際し粉末紅蔘、紅蔘錠及蔘精を副製して、内地又は朝鮮の需要者に賣下ぐることとなしたり。即ち最近一箇年に於ける之等製品の拂下價額は六萬圓内外なり。

白 蔘 政府の專賣に係る紅蔘原料、即ち耕作區域内に於て收穫せる水蔘にして、政府に於て收納せざるものと區域外耕作の水蔘は、民間に於て白蔘に製造販賣す。近年の概況左の如し。

| 年次 | 區域内 | | 區域外 | |
|-------|-----------|-----------|-----------|---------|
| | 製造數量 斤 | 價額 円 | 製造數量 斤 | 價額 円 |
| 昭和九年 | 一六、九三〇 | 一、〇八八、七六九 | 四〇、一三五 | 二九四、六五九 |
| 昭和八年 | 一九三、〇〇五 | 一、一七三、七六三 | 調査ヲ次ク | — |
| 昭和七年 | 一九、九〇四 | 九九三、四三三 | 一七、五九三 | 一六、三二九 |
| 昭和六年 | 一八一、〇七七 | 八一七、三九九 | 一四、五四九 | 九、四六四 |
| 昭和五年 | 一七、三三三 | 九四五、八六五 | 一五、四〇六 | 一三、五四七 |
| 昭和四年 | 三三、三三九 | 一、三七五、六一 | 一七、三三四 | 二〇三、三二二 |
| 昭和三年 | 一三、四四八 | 一、七四一、七九五 | 一六、八三三 | 二四六、八六〇 |
| 昭和二年 | 一六、一七三 | 一、三〇、八六五 | 一八、五六一 | 三三、三六〇 |
| 昭和元年 | 六七、七二九 | 八七〇、九二〇 | 一七、七八六 | 二四三、〇三三 |
| 大正十四年 | 一〇〇、〇九三 | 一、三二八、五九五 | 九、六六七 | 一三、六一 |
| 大正十三年 | 一三、七六六 | 九二二、八六一 | 九、七二八 | 一〇〇、六八八 |

| | | | | |
|-------|-------|---------|-------|--------|
| 大正十二年 | 一七、四三 | 九〇、四四 | 一一、五五 | 一〇一、三〇 |
| 大正十一年 | 二二、八六 | 一、二七、七四 | 三、六四 | 三三、三九 |
| 大正十年 | 三九、五五 | 一、〇六、〇〇 | 五、四六 | 六、二七 |

以上の白蔘は朝鮮内に於ける需要を充す外、毎年輸出せられ昭和九年に於ては七萬七千斤、三十五萬圓を示せり。其の仕向地は内地大部分を占め中華民國之に次ぎ滿洲國、香港、海峽殖民地布哇等に若干とす。

鹽

沿 草 古來朝鮮に於ける民間の製鹽は専ら煎熬式に依れるが其の製法甚だ幼稚にして燃料及勞力を要すること夥しく爲に其の生産費は高價となるを免れ難く依て明治三十五、六年頃即ち我が保護政策肇始前後に於ては安價なる支那鹽の輸入を誘致したるを始めとし毎年巨額の輸入超過を來すに到り自然煎熬鹽は之が爲め壓倒せられ到底發達の見込なかりしかば舊韓國政府は京畿道朱安に鹽業試驗場を設け明治四十年以來天日製鹽の試験を行ひ兼て鹽政の確立を企圖したるものとす。然るに其の結果は頗る良好なる成績を擧ぐるに鑑み天日製鹽は之を官營とし鹽田築造計畫を樹て着々實施し日韓併合後に於ても之を踏襲し漸次擴張を計り來れり。

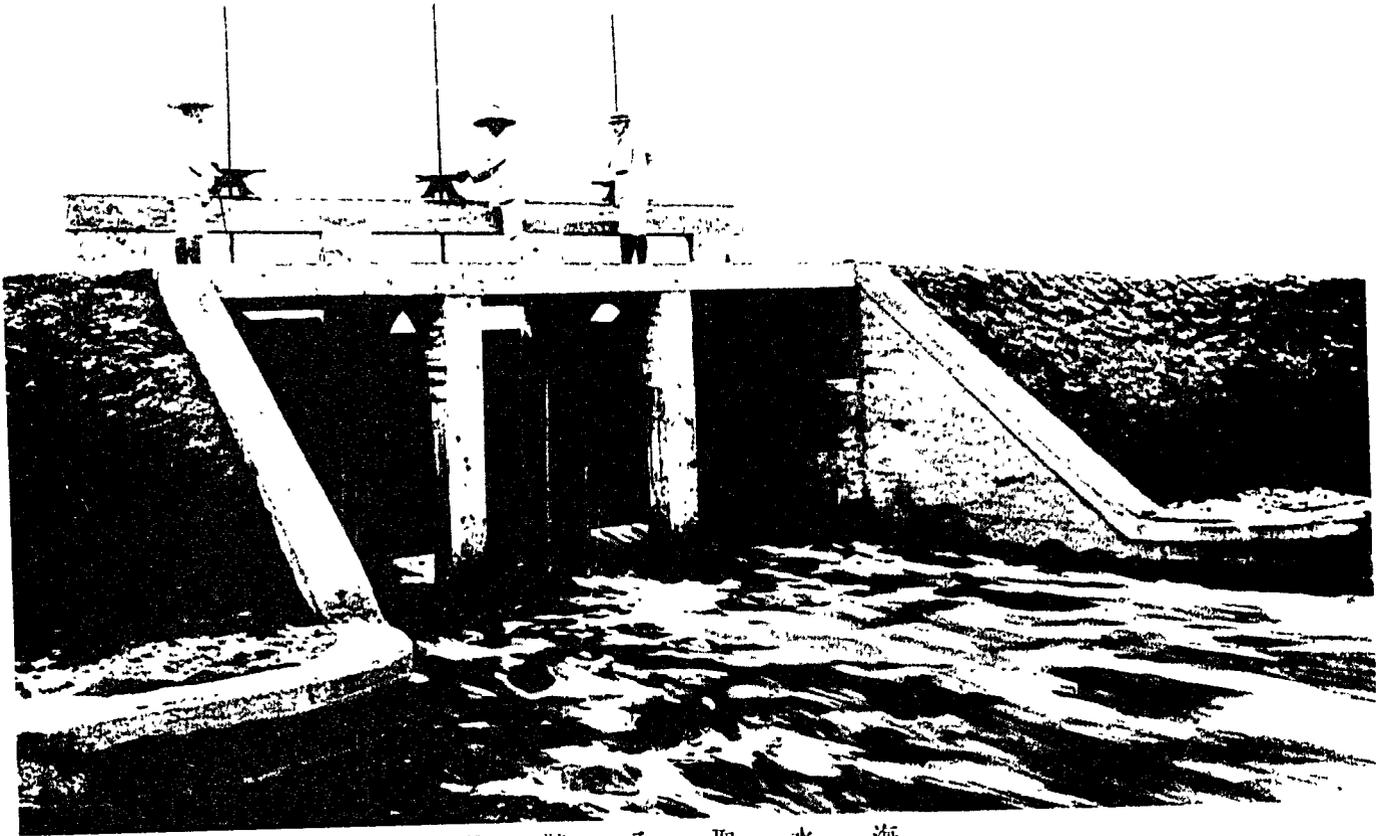
而して朝鮮に於ける鹽の消費量は歲に依り増減あるも年額約五億七千萬斤なるに對し官鹽供給力は全體二

億四千萬斤内外にして之に民營の在來煎熬鹽の生産約六千萬斤を見込むも尙二億七千萬斤の不足は之を鮮外よりの輸入に俟たざるべからず、然るに朝鮮に於ける關稅特例は昭和五年三月末日限り廢止せられ鹽は無税となる爲生産業の乏しき鮮内、殊に鹽業に及ぼす影響の甚大にして又一面鹽自由輸入の結果自然市場に於ける競争を誘致し生活必需品をして投機の目的物たらしめ需給の不圓滑を招來する惧あるを以て政府は之が輸入管理を爲し鹽價の統制を圖る爲昭和五年三月之に關する制令を公布し、鹽の輸入は總て政府の命令又は許可を要することとなり茲に鹽政の確立を見多年の懸案を解決するに至れり。

鹽田及生産 上述の如く舊韓國政府は天日製鹽を官營とし、第一期鹽田築造計畫を樹て、日韓併合後政府は該計畫を繼承實施し、明治四十二年度より大正元年度に互り平安南道廣梁灣及京畿道朱安に八百五十八町歩の鹽田を、第二期計畫として大正六年より同九年度に互り平安南道徳洞に三百四十七町歩を築造し、更に進んで第三期計畫を樹て、大正九年度以降七箇年繼續事業として、平安南道貴城、平安北道南市、京畿道南洞及君子に於て二千六百町歩を築造することとし、既に一千二百四十一町歩を竣功せるも大正十二年東都大震災復興の爲朝鮮事業公債削減の結果、本事業も中止の已むなきに至り前記既成鹽田と合し面積二千四百四十六町歩となりたり、然るに其後昭和六年度鹽田の内部整地に依り二十八町歩を築造したるを以て現在に於ける鹽田總面積は二千四百七十四町歩なり。尙昭和八年度以降五箇年繼續事業として一千一百町歩築造することとなり現下之が工事中なるが、右の内昭和九年度は既に竣成を見たるもの百八十四町歩あるを以て現在



天日鹽田採鹽ノ狀況



海 水 取 入 状 况

の合計面積は二千六百五十八町歩となりたり。

而して朝鮮に於ける製鹽季は結氷期を除き三月より十月まで八箇月間にして、三月は鹽田手入の所謂準備期にして生産なく四月より七月中旬までを其最盛期とし年産額の六割、七月中旬より八月中旬までは兩期にして一割、八月中旬以降三割を生産するを通例とす、且つ此の生産量は天候の良否と鹽田の熟否に依り自ら差異あり、普通築造の翌年は一町歩當一萬六千斤を生産し、五年乃至八年後熟田に達すれば一町歩當十萬斤を生産するに至るものとす尙各年度の實績は左の如し。

| 年 度 | 鹽 田 面 積 | 鹽 生 産 高 | 一町歩平均生産高 |
|-----------|--------------------|--------------------|-------------------|
| 昭 和 九 年 度 | 二、六六 ^{町歩} | 一四、七二 ^町 | 五、六四 ^町 |
| 昭 和 八 年 度 | 二、四七 | 二〇、九三 | 八、六九 |
| 昭 和 七 年 度 | 二、四六 | 二二、四五 | 六、二七 |
| 昭 和 六 年 度 | 二、四六 | 一四、三三 | 五、八二 |
| 昭 和 五 年 度 | 二、四六 | 一四、三〇 | 五、四三 |
| 昭 和 四 年 度 | 二、四六 | 一八、六三 | 七、五九 |
| 昭 和 三 年 度 | 二、四六 | 一五、二五 | 六、二四 |
| 昭 和 二 年 度 | 二、四六 | 一〇、七〇 | 四、八七 |

| 昭和 | 大正 | 大正 | 大正 | 大正 | 大正 |
|------|-------|------|-------|-------|-------|
| 十五年 | 十四年 | 十三年 | 十二年 | 十一年 | 十一年 |
| 年度 | 年度 | 年度 | 年度 | 年度 | 年度 |
| 二、四六 | 三、四六 | 一、七六 | 一、六六 | 一、六六 | 一、六六 |
| 三、〇五 | 五、九六 | 六、〇六 | 四、三二 | 四、四〇 | 四、四〇 |
| 六、〇四 | 三〇、八九 | 六、五四 | 二四、二九 | 二七、四三 | 二七、四三 |

販 賣 朝鮮に於ける鹽は、其の需給關係上從來之が拂下價格は常に他の輸入鹽に支配せられ、屢々拂下價格の變更を行はざるを得ざる状態なりしも、昭和五年度以降に於ては前記の通り輸移入管理を行ふ爲鹽價の統制を爲し得るに至れり、而して輸移入管理に當り鹽の販賣は之を政府の指定したる鹽賣捌人をして爲さしむることとし從來の官鹽特定販賣人たりし者四十九名と新に二十六名計七十五名（食卓鹽精製鹽のみ）の賣捌人四十八名を除くを指定したるが其後販賣能力を失ひたる者十二名を整理したる結果現在六十三名なり、尙各年度に於ける鹽賣渡高を示せば左の如し。

| 年 度 | 數 量 | 價 額 | 六〇珎平均價格 |
|--------|---------------------|----------------------|---------|
| 昭和九年 度 | 二五、〇六 ^{千珎} | 六、四六、三三 ^円 | 一・二三 |
| 昭和八年 度 | 三二、〇四 | 五、七五、三六 | 一・二二 |
| 昭和七年 度 | 二八、一六 | 四、三三、三二 | ・九四 |

| 年次 | 製造者數 | 釜數 | 面積 | 製造高 |
|--------|--------|-----------|----|------|
| 昭和六年度 | 三五、六二 | 四、六〇二、六四五 | | ・八四 |
| 昭和五年度 | 二四、〇四六 | 三、四二二、二二五 | | ・八四三 |
| 昭和四年度 | 三二、九七 | 一、六三六、一九五 | | ・八〇四 |
| 昭和三年度 | 二八、〇九七 | 一、五五四、五六八 | | ・七六〇 |
| 昭和二年度 | 八二、四六六 | 一、三三〇、二四二 | | ・八八八 |
| 昭和十五年 | 七〇、三四 | 一、三二〇、四三三 | | ・二一八 |
| 大正十四年度 | 四九、三三八 | 一、一八三、三三三 | | ・一四二 |
| 大正十三年度 | 五三、六四九 | 一、〇〇五、六六〇 | | ・一三五 |
| 大正十二年度 | 二六、一〇六 | 六三三、四六八 | | ・一四七 |
| 大正十一年度 | 四九、一六三 | 九〇一、一〇一 | | ・一七二 |

在來煎熬鹽及再製鹽 朝鮮に於ける在來鹽田は各道の沿岸に散在し、其の經營規模小さく製法亦頗る幼稚なり、而して主に農家の副業なるを以て利あれば就業し、收支償はざるに至れば直に捨て、顧みざる情態にして漸次衰退の傾向あり、其の概況左の如し。

| 年次 | 製造者數 | 釜數 | 面積 | 製造高 |
|-------|-------------------|-------------------|--------------------|-------------------|
| 昭和九年度 | 一、六三 _人 | 一、三三 _個 | 二、六五 _{町歩} | 七、八五 _石 |

| 年次 | 製造者数 | 生産数 | 製造高 |
|--------|-------|-------|--------|
| 昭和八年度 | 一、七九七 | 一、四三三 | 三九、四八三 |
| 昭和七年度 | 一、八二七 | 一、四一七 | 四〇、八五九 |
| 昭和六年度 | 一、七五七 | 一、七〇七 | 三九、一六六 |
| 昭和五年度 | 一、六八八 | 一、四九七 | 三四、一五四 |
| 昭和四年度 | 六、二二八 | 一、五三〇 | 四一、六二五 |
| 昭和三年度 | 六、七三三 | 一、七五四 | 三四、四六六 |
| 昭和二年度 | 六、九七九 | 一、八四四 | 三四、七三一 |
| 昭和元年度 | 七、二七四 | 二、三五九 | 四〇、二九三 |
| 大正十四年度 | 七、一六九 | 二、三三五 | 三〇、三六六 |
| 大正十三年度 | 六、七三三 | 二、四九〇 | 三三、八〇七 |
| 大正十二年度 | 六、六六六 | 二、四〇八 | 四〇、一八六 |
| 大正十一年度 | 六、六六八 | 二、四七三 | 三六、六四四 |

備考 昭和五年迄は本府文書課調にして昭和六年以降は専賣局調査に因る。
再製鹽業亦不振の状況に在り其の概要左の如し。

昭和九年度

製造者数
五八

生産数
一、五三三

製造高
二七、六三六

五四

鹽輸移出入 各年に於ける輸移入及輸移出状況左の如し。

| 年次 | 輸移入 | | 輸移出 | |
|--------|-----|----|-----|------|
| | 數量 | 價額 | 數量 | 價額 |
| 昭和八年度 | 六 | | 一七 | 元、六二 |
| 昭和七年度 | 七 | | 一五 | 元、三六 |
| 昭和六年度 | 七 | | 三〇 | 元、九〇 |
| 昭和五年度 | 七 | | 一五 | 元、七五 |
| 昭和四年度 | 六 | | 一三 | 元、〇〇 |
| 昭和三年度 | 五 | | 一四 | 元、八〇 |
| 昭和二年度 | 五 | | 一五 | 元、九六 |
| 昭和十元年度 | 五 | | 一五 | 元、〇六 |
| 大正十四年度 | 七 | | 一四 | 元、〇二 |
| 大正十三年度 | 六 | | 一三 | 元、五八 |
| 大正十二年度 | 六 | | 一六 | 元、七六 |
| 大正十一年度 | 六 | | 二四 | 元、〇七 |

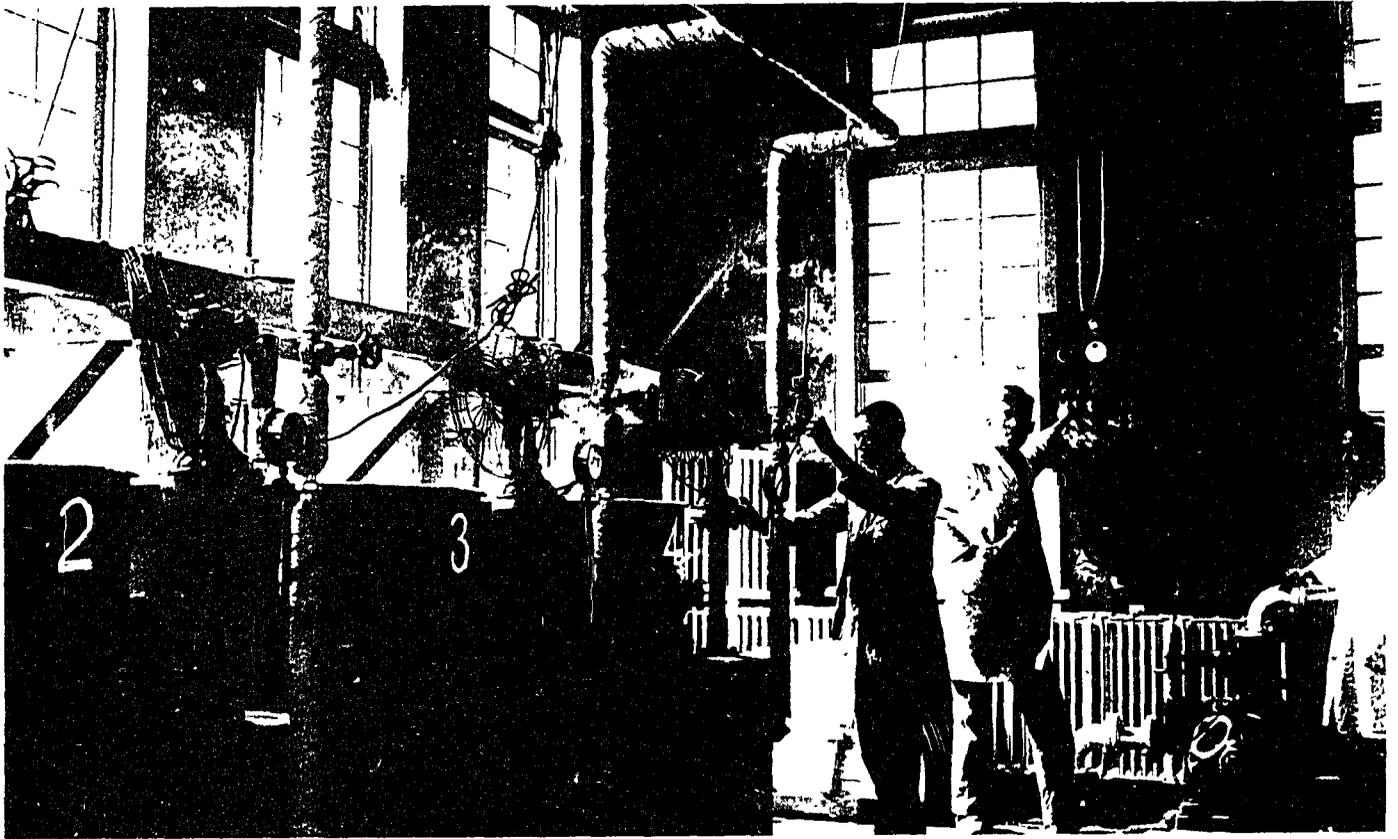
數量 千石
一七、三六
價額 円
二七、六、五二

數量 千石
五五
價額 円
六、六三

沿 革 由來朝鮮に於ては阿片煙吸飲の弊習あり、其の害毒蓋し尠からざりしかば、舊韓國政府は明

阿 片

| | | | | |
|--------|---------|-----------|-------|--------|
| 昭和八年度 | 一八六、八五〇 | 二、八二八、二四九 | 五六 | 八、七四六 |
| 昭和七年度 | 二八五、〇五〇 | 二、〇三二、四三七 | 一八〇 | 九、三四四 |
| 昭和六年度 | 一三二、四六六 | 一、七〇一、五三四 | 二二〇 | 六、〇三〇 |
| 昭和五年度 | 二二二、三〇三 | 一、〇四三、六一一 | 一〇 | 五、七三七 |
| 昭和四年度 | 一三七、二六七 | 一、四四四、七六七 | 一八 | 三、六九八 |
| 昭和三年度 | 一四八、四七六 | 一、八五二、一九七 | 一三三 | 七、〇六三 |
| 昭和二年度 | 一七〇、一七六 | 二、二二八、七二八 | 四五 | 四、五九四 |
| 昭和元年度 | 一八一、七六九 | 二、八三三、〇九九 | 一〇六 | 六、七二一 |
| 大正十四年度 | 一六六、二七〇 | 二、七九七、二六 | 三七九 | 一五、九六三 |
| 大正十三年度 | 一三六、〇五七 | 二、二八一、二八八 | 二、三〇八 | 八、八四九 |
| 大正十二年度 | 一八七、〇三三 | 二、六九九、九三〇 | 二、二八六 | 六五、四三六 |
| 大正十一年度 | 一三五、六一一 | 一、六五五、九三三 | 三、九二〇 | 一五、八五六 |



室發蒸場工ネヒルモ局支賣專城京



栗畝栽培状況及乳液ヲ採タル畝前果

治三十八年法令を公布し、阿片煙及吸煙器具の輸入、製造、販賣を禁止、日韓併合後政府は明治四十五年三月朝鮮刑事令を發布し、制裁を嚴にせしめしが未だ徹底の域に達せず、依て更に大正八年六月阿片取締に關する訓令を發布し、阿片製造の許可を受けたる者の外罌粟の栽培を嚴禁し尙之が栽培區域を京畿道外五道に限定し、製造したる阿片は之を政府に於て收納し更に之を特定の製藥業者に拂下ぐることにせり、斯の如く阿片に對する取締勵行の結果現今朝鮮に於ける阿片煙の吸飲は其の跡を斷つに至れりと雖、一方「モルヒネ」中毒に罹れる者尠からず、之等中毒者に對しては「モルヒネ」類の注射服用を禁止せむが爲大正九年十二月「モルヒネ」類取締に關する府令を發布し其輸移出入、授受及所持に付嚴重なる制限規定を設け之が取締を勵行したるも屢反則行はれ或は不當の價格を以て販賣する等、其の害毒蓋し尠からず斯の如き状態にては朝鮮に於ける「モルヒネ」類中毒者を容易に根絶し難きを以て「モルヒネ」類の製造販賣を政府事業とし、之等患者の絶滅を期する方針を樹立せり。

而して從來罌粟栽培及取締事務は警務局の主管となし、阿片收納及賣下に關する事務は財務局專賣課の主管と爲したりしも、大正十年專賣局創設と共に財務局より當局主管に移り、更に大正十四年四月事業を擧げて警務局に移管したりしも上記の如く「モルヒネ」類の製造を官營とし、中毒者を登録公認し以て治療を爲すと共に「モルヒネ」類供給の爲、昭和四年九月阿片收納の事務は「モルヒネ」類製造販賣事業の創設と共に更に當局所管に還元せられ、京城府仁義町專賣支局内に工場を設置を見、製造機械の設備完了と共に同五年三月より事業開始の運に至れり。

收 納 阿片は京畿、江原、咸南及咸北の四道に於て生産するが昭和九年度道別收納實蹟左の如し。

| 道 別 | 收納量目 | 乾燥阿片 正味量目 | モルヒネ 含有量目 | 平均モルヒネ 含有割合% | 賠償金 |
|---------|-------------------------|-------------------------|------------------------|-----------------|-------------------------|
| 京 畿 道 | 10,181 <small>斤</small> | 17,777 <small>斤</small> | 1,791 <small>斤</small> | 10.04 | 481.13 <small>円</small> |
| 江 原 道 | 183,806 | 20,765 | 3,808 | 3.55 | 5,666.77 |
| 咸 鏡 南 道 | 7,399,205 | 6,744,834 | 95,701 | 3.46 | 37,366.76 |
| 咸 鏡 北 道 | 3,496,600 | 3,099,435 | 35,467 | 3.43 | 9,533.66 |
| 計 | 11,366,803 | 10,066,821 | 1,334,767 | 3.15 | 343,076.97 |

製 造 昭和九年度に於て製造したる製品は鹽酸モルヒネ、鹽酸デアセチルモルヒネ、及醫藥用阿片の三種にして其の製造實蹟左の如し。

| 品 名 | 製造數量 | 品 名 | 製造數量 |
|---------------|--------------------------|-----------|------------------------|
| 鹽 酸 莫 尔 比 ネ | 330,331 <small>斤</small> | 醫 藥 用 阿 片 | 9,940 <small>斤</small> |
| 鹽 酸 デアセチルモルヒネ | 100,833 | 計 | 431,074 |

販 賣 昭和九年度に於ける麻藥及醫藥用阿片の販賣高左の如し。

| 品 名 | 數 量 | 金 額 |
|---------------|-------------------------|----------------------------|
| 鹽 酸 莫 尔 比 ネ | 28,300 <small>斤</small> | 15,165.50 <small>円</small> |
| 鹽 酸 デアセチルモルヒネ | 4,855 | 31,290.90 |
| 醫 藥 用 阿 片 | 8,500 | 1,060.00 |
| 計 | 36,655 | 19,516.40 |

昭和十一年四月十日印刷
昭和十一年四月十五日發行

朝鮮總督府專賣局

京城府太平通二丁目一番地

印刷所 大海堂印刷株式會社